第１版

足立区立小・中学校の
適正規模・適正配置実施計画

― 花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（案）―

令和８年１月

足立区教育委員会

～足立区立小・中学校の適正規模・適正配置事業について～

適正規模・適正配置実施計画は、足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方に基づき、学校規模や児童・生徒数の変動、施設の老朽化などのほか、その学校を含むエリア内の学区域や町会・自治会の区域なども踏まえて、改善方法や事業の実施時期などを明確にするものです。

現在と未来の子どもたちにより良い教育環境を提供するため、本計画に基づき、適正規模・適正配置の取り組みを着実に進めてまいります。

「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置ガイドライン（令和７年１０月策定）」より以下抜粋

足立区の適正規模の基準【学級数】

	小学校	中学校
学級数	１校あたり１２～２４学級 １学年あたり２～４学級	１校あたり１２～２４学級 １学年あたり４～８学級

〔文部科学省と足立区の適正規模基準の比較〕

<table>
<tr><th></th><th>国の根拠法令など</th><th>国</th><th>区（小・中学校）</th></tr>
<tr><td>小規模校</td><td>－</td><td colspan="2">１１学級以下</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適正規模</td><td>学校教育法施行規則</td><td>１２～１８学級</td><td rowspan="2">１２～２４学級</td></tr>
<tr><td>義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令</td><td>１２～２４学級
（５学級以下の学校と１２～１８学級の学校を統合した場合）</td></tr>
<tr><td>大規模校</td><td rowspan="2">文部科学省の手引き</td><td>２５～３０学級</td><td>２５学級以上</td></tr>
<tr><td>過大規模校</td><td>３１学級以上</td><td>大規模校と同様の扱い</td></tr>
</table>

※　令和７年４月現在、区では「東京都公立小・中学校の学級編成基準」に基づき、小学校は全学年で、中学校では１年生のみ３５人学級の編制となっています。国や都では、令和８年度以降、中学校でも段階的に全学年３５人学級を実現していく方針のため、今回の実施計画（案）では小学校・中学校ともに、原則１学級あたり３５人として算出しています。

足立区の適正配置の基準【通学時間及び通学距離】

	小学校	中学校
通学時間	おおむね３０分以内	
通学距離	おおむね１，２００m以内が望ましい	おおむね１，８００m以内が望ましい

※　望ましい通学距離は自宅から学校までの直線距離で設定

通学時間や通学距離の考え方

通学時間
通学時間は、一般的に子どもが通学に要する時間を、目安として基準にしています。 厚生労働省による子どもの起床時間の調査や、足立区の学校の登校時間などを勘案し、通学時間として「おおむね３０分以内」を一つの目安としています。
通学距離
通学時間「おおむね３０分以内」より通学距離の目安を算出 小学生は「分速４０ｍとして、３０分歩くとおおむね１，２００ｍ進む」 中学生は「分速６０ｍとして、３０分歩くとおおむね１，８００ｍ進む」 ※　通学距離の基準は、自宅から学校までの直線距離で測って設定しています。

◇◆◇　目　次　◇◆◇

第１章　児童・生徒数の推移と学校施設の更新

１　区内総人口と児童・生徒数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１ページ
２　学校数及び建築年次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１ページ

第２章　花畑地区の中学校の現状と課題

１　中学校の配置図（花畑地区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２ページ

２　花畑北中学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３ページ
（１）これまでの在籍生徒数の推移
（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

３　花畑中学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４ページ
（１）これまでの在籍生徒数の推移
（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

４　学校施設の更新・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５ページ

第３章　花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（中学校）

１　適正規模・適正配置の具体的な方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６ページ
（１）「花畑北中学校」と「花畑中学校」を統合します
（２）統合後の学校の配置を検討します
　ア　適正配置の視点
　イ　敷地面積の視点
　ウ　施設更新の視点
（３）改築期間中の仮校舎を検討します

第４章　花畑地区の小学校の現状と課題

１　小学校の配置図（花畑地区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０ページ

２　花畑西小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１ページ
（１）これまでの在籍児童数の推移
（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

３　桜花小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２ページ
（１）これまでの在籍児童数の推移
（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

４　花畑第一小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３ページ
（１）これまでの在籍児童数の推移
（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

５　花畑西小学校の適正規模化に向けた検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５ページ
（１）学区域変更
（２）学校統合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６ページ
ア　花畑西小学校と桜花小学校を統合する場合・・・・・・・・・・・・・・・・・１７ページ
イ　花畑西小学校と花畑第一小学校を統合する場合・・・・・・・・・・・・・・・１９ページ
ウ　全３校を統合する場合（花畑西小学校・桜花小学校・花畑第一小学校）・・・２１ページ

６　学校施設の更新・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２ページ

第５章　花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（小学校）

１　適正規模・適正配置の具体的な方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３ページ
（１）「花畑西小学校」と「桜花小学校」を統合します
（２）統合後の学校の配置を検討します
ア　適正配置の視点
イ　敷地面積の視点
ウ　施設更新の視点
（３）改築期間中の仮校舎を検討します

第６章　学校統合に向けた今後の進め方

１　統合地域協議会の設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６ページ

２　統合及び校舎建設等のスケジュール（予定）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７ページ
（１）中学校
（２）小学校

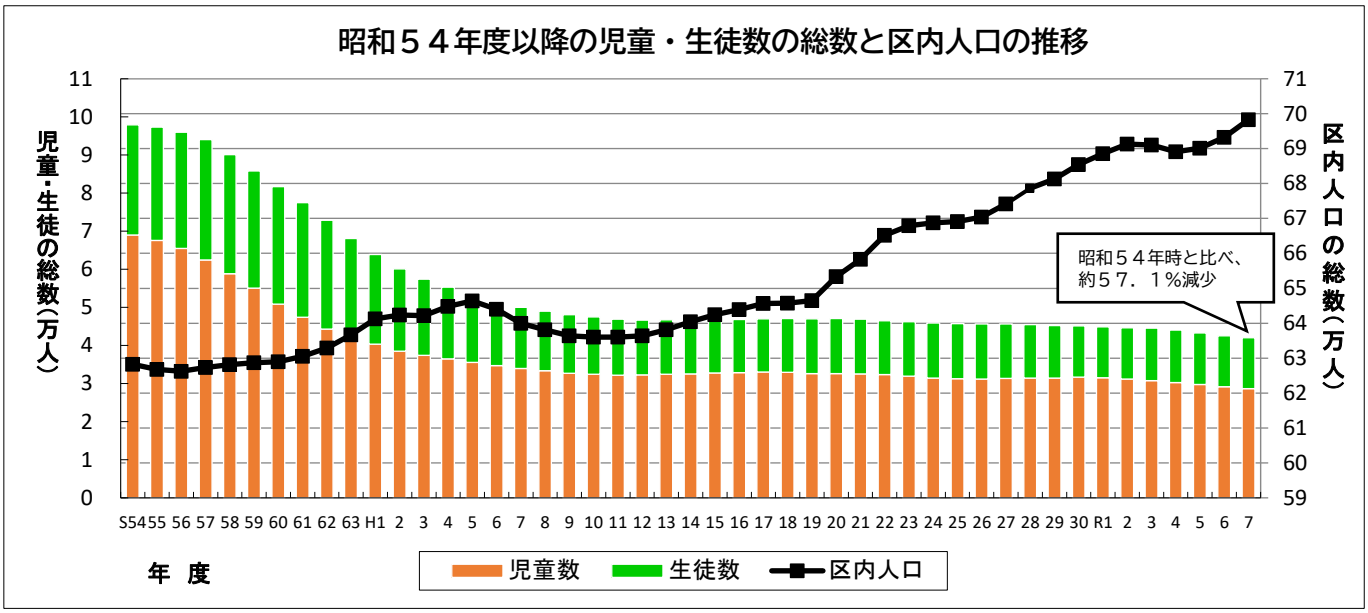
３　請願を踏まえた検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８ページ

※　花畑地区とは、花畑一丁目から八丁目、南花畑一丁目から五丁目、及びその近隣（保木間五丁目、東保木間一・二丁目、六町四丁目）の地域としています。

第１章　児童・生徒数の推移と学校施設の更新

１　区内総人口と児童・生徒数の推移

区内総人口はゆるやかな増加傾向にあり、令和７年１月現在６９８，２７６人となっています。一方で、区立小・中学校（以下「小・中学校」という。）の児童・生徒数は、昭和５４年度の９７，８６９人をピークにその後は減少に転じ、令和７年５月現在で、４２，０１３人と昭和５４年時と比較して約５７．１％減少しています。



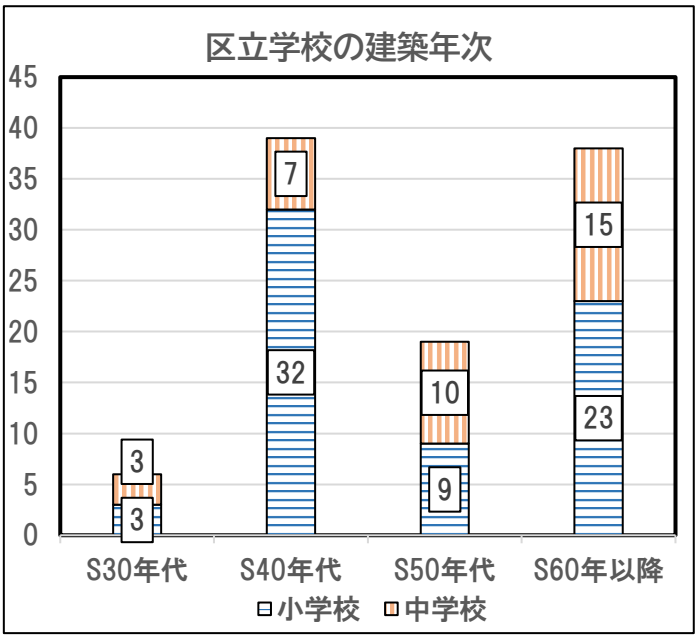
※　区内総人口は各年１月１日付（外国人を含む）、児童・生徒数は各年５月１日付データ。

２　学校数及び建築年次

足立区では、昭和３０年代から昭和４０年代に多くの小・中学校を建設し、昭和６２年度には小・中学校合わせて最多の１１９校（小学校８０校、中学校３９校）を有していました。

その後は学校の統合により、令和７年４月１日現在、小学校６７校、中学校３５校の１０２校となっています。

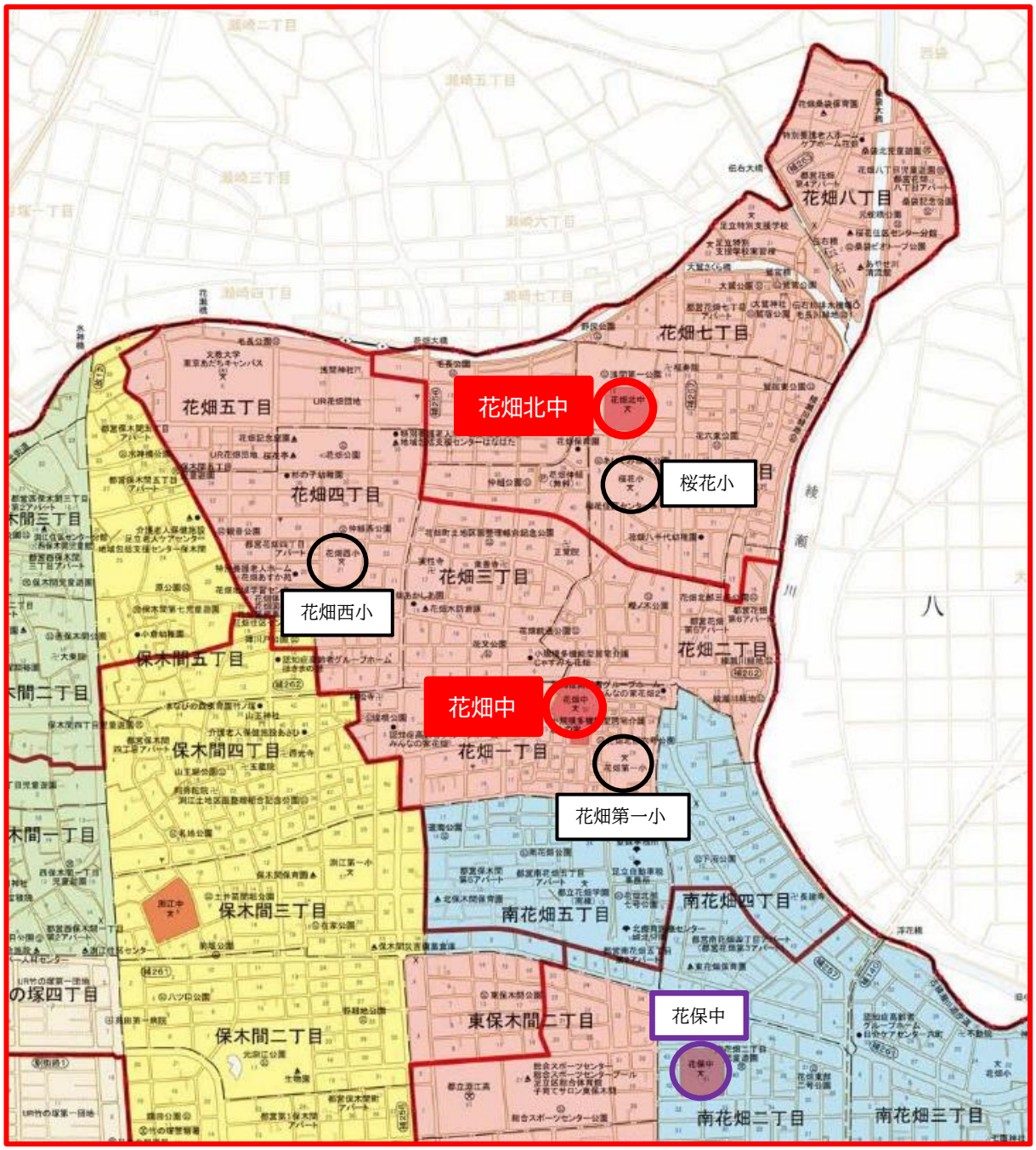
児童・生徒の教育環境を向上させるため、引き続き保全工事による長寿命化や施設更新を計画的に行う必要があります。



※　大規模改修済み校・改築予定校については、「Ｓ６０年以降」に含めています。

第２章　花畑地区の中学校の現状と課題

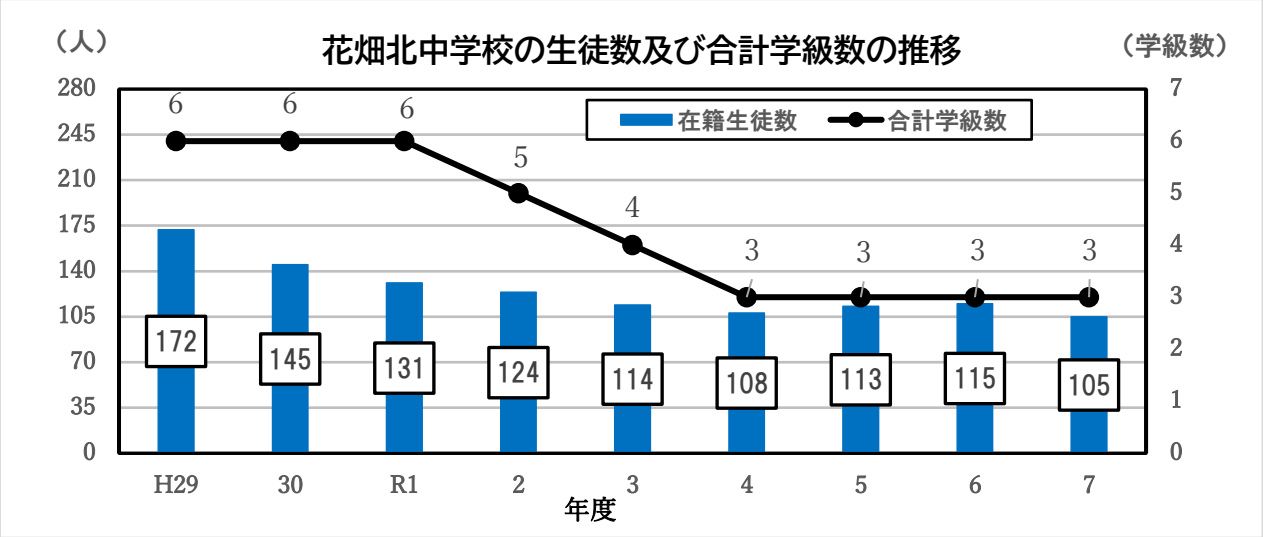
１　中学校の配置図（花畑地区）



２　花畑北中学校の状況

（１）これまでの在籍生徒数の推移

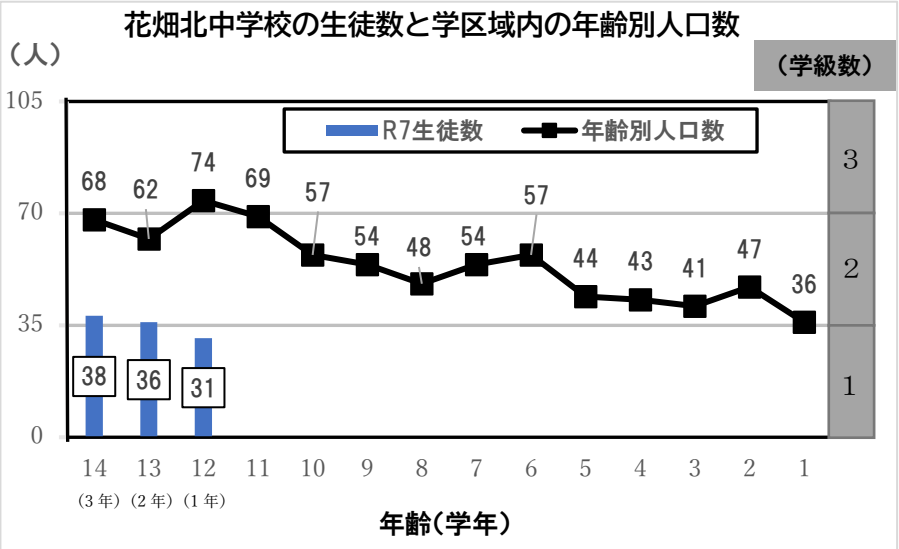
平成２９年度から令和７年度までの９年間で、生徒数は１７２人から１０５人へ約３９％減少し、令和４年度以降は合計学級数（年度ごとに１～３年生の学級数を合計した数）が３学級となり、小規模状態が続いています。

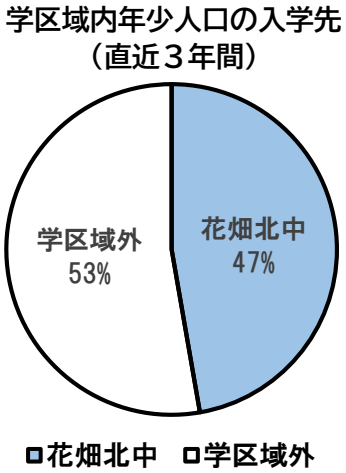


（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍生徒数は全学年で少なくなっています。また、花畑北中学校に通学している学区域内年少人口は、全体の４７％にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の１歳から１１歳までの年少人口の全員が仮に花畑北中学校に就学し、１学年３５人学級と算定したとしても、<u>各年齢で１学年あたり２学級となる見込みで、今後も小規模状態が続く</u>と予測しています。



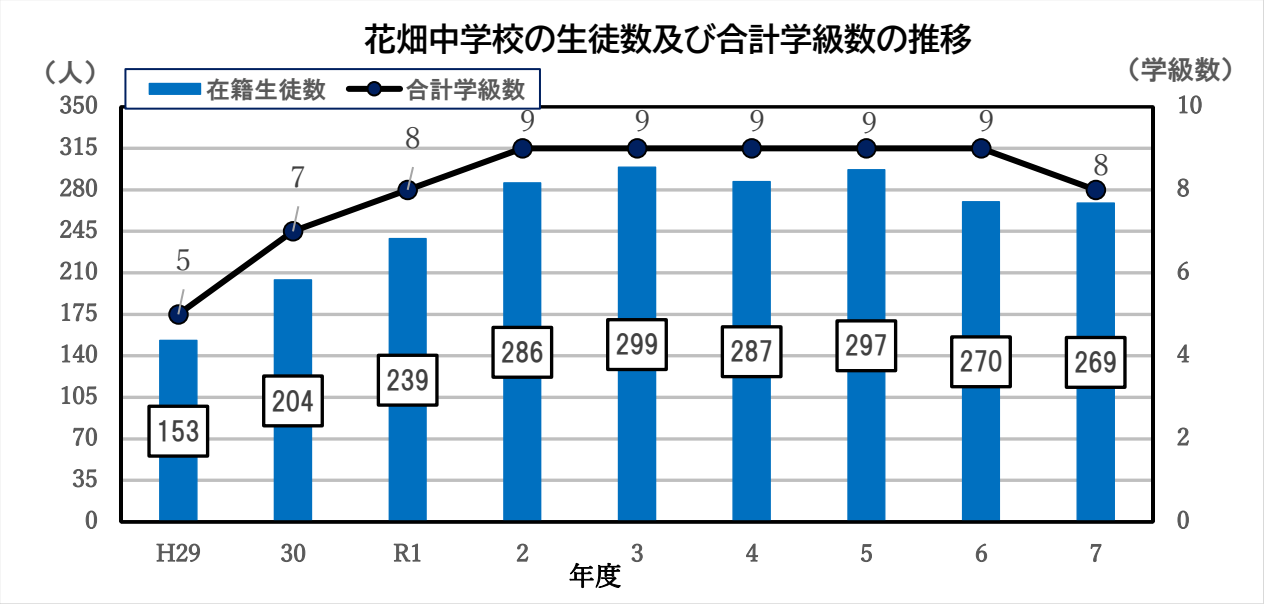


※　令和７年５月時点の生徒数・居住人数をもとに算出（％は小数点第一位を四捨五入）。

３　花畑中学校の状況

（１）これまでの在籍生徒数の推移

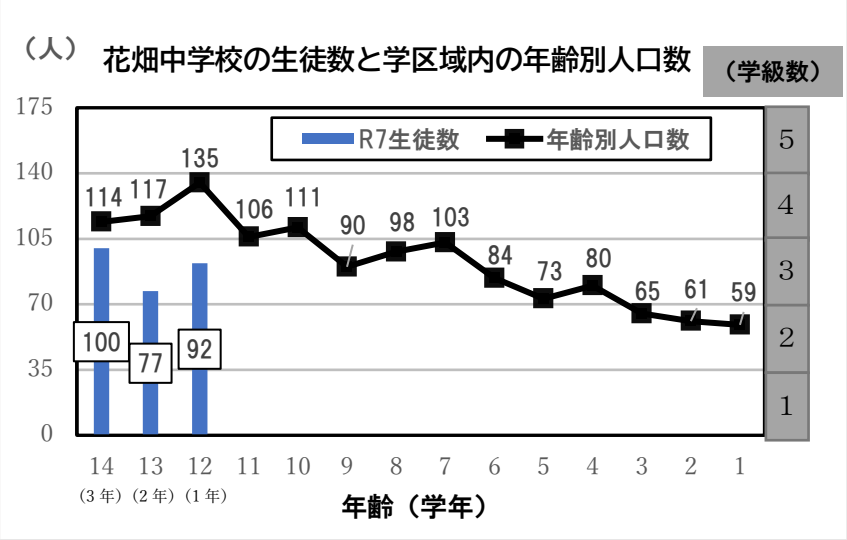
生徒数は、平成２９年度の１５３人から増加し、令和３年度の２９９人をピークにその後は減少傾向となっています。また、合計学級数（年度ごとに１～３年生の学級数を合計した数）は９学級を超えず、小規模状態が続いています。

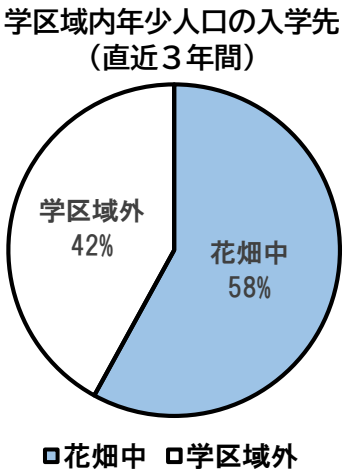


（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍生徒数は全学年で少なくなっています。また、花畑中学校に通学している学区域内年少人口は、全体の５８％にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の１歳から１１歳までの年少人口の全員が仮に花畑中学校に就学し、１学年３５人学級と算定したとしても、<u>９歳以下では１学年あたり３学級以下となる見込みで、小規模傾向になる</u>と予測しています。





※　令和７年５月時点の生徒数・居住人数をもとに算出（％は小数点第一位を四捨五入）。

４　学校施設の更新

花畑中学校の校舎は昭和３８年建設で、築後６０年を経過しています。

大規模改修済みの学校を除くと、区内中学校では渕江中学校の次に古い校舎となるため、すみやかに施設更新を進める必要があります。

◆昭和３０年代に建築された中学校◆

番号	学校名	建築年	大規模改修等の実施状況
1	東島根中学校	昭和３４年	平成２５年度　大規模改修済み
2	第十二中学校	昭和３５年	平成２５年度　大規模改修済み
3	第九中学校	昭和３６年	平成２２年度　大規模改修済み
4	第四中学校	昭和３６年	平成２１年度　大規模改修済み
5	第十中学校	昭和３７年	平成２５年度　大規模改修済み
6	渕江中学校	昭和３７年	
7	花畑中学校	昭和３８年	
8	第七中学校	昭和３９年	平成２２年度　大規模改修済み
9	第十四中学校	昭和３９年	

◇大規模改修とは◇

壁、床、天井を入れ替え、エレベーターを設置した改修。

第３章　花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（中学校）

１　適正規模・適正配置の具体的な方法

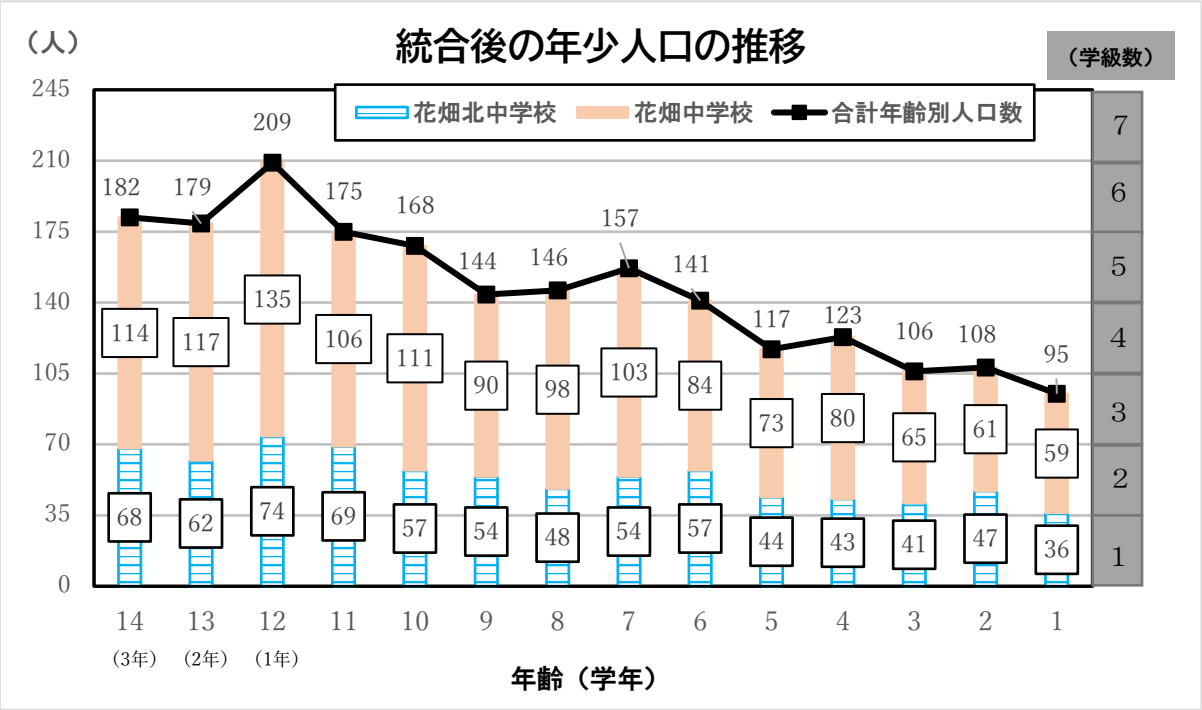
（１）「花畑北中学校」と「花畑中学校」を統合します

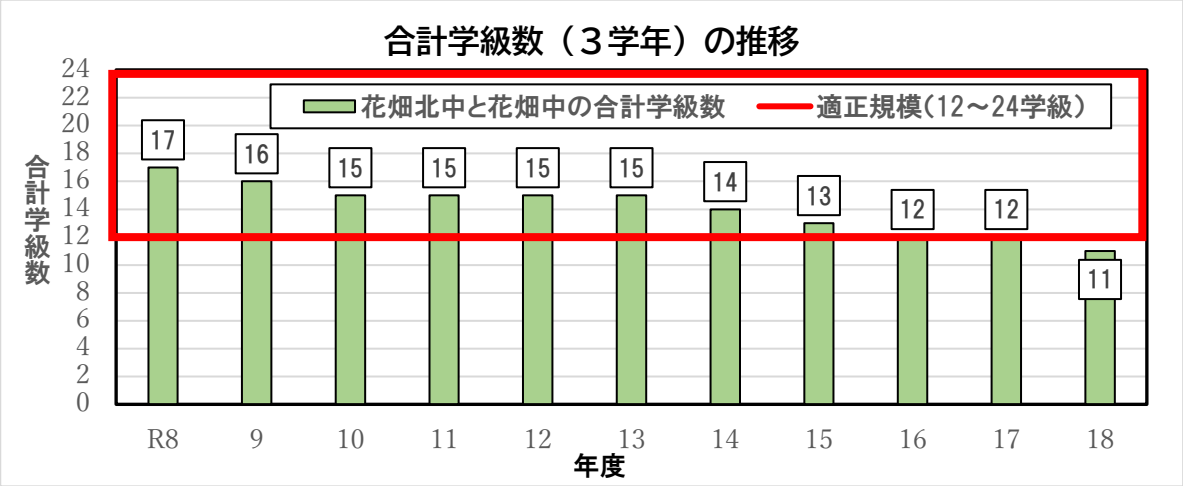
花畑北中学校と花畑中学校の学区域内の１歳から１１歳までの年少人口の全員が仮に学区域内の中学校に就学し、１学年３５人学級で算定した場合、統合後の３学年の合計学級数は１１～１７学級程度の規模で推移することが予測されます。

なお、令和１８年度には統合後の合計学級数が適正規模を下回る１１学級になる見込みですが、まずは現在すでに小規模な花畑北中学校と、令和１０年度から小規模化が見込まれる花畑中学校を安定した学校規模にすることで、学校生活をより充実させ、教育環境の向上を目指します。

また将来を見据えて、引き続き学区域内の年少人口の推移を把握していくとともに、近隣の花保中学校の動向（次ページ参照）等についても注視していきます。

◇統合後の年少人口の推移◇　　※　令和７年５月時点の学区域内居住人数をもとに算出



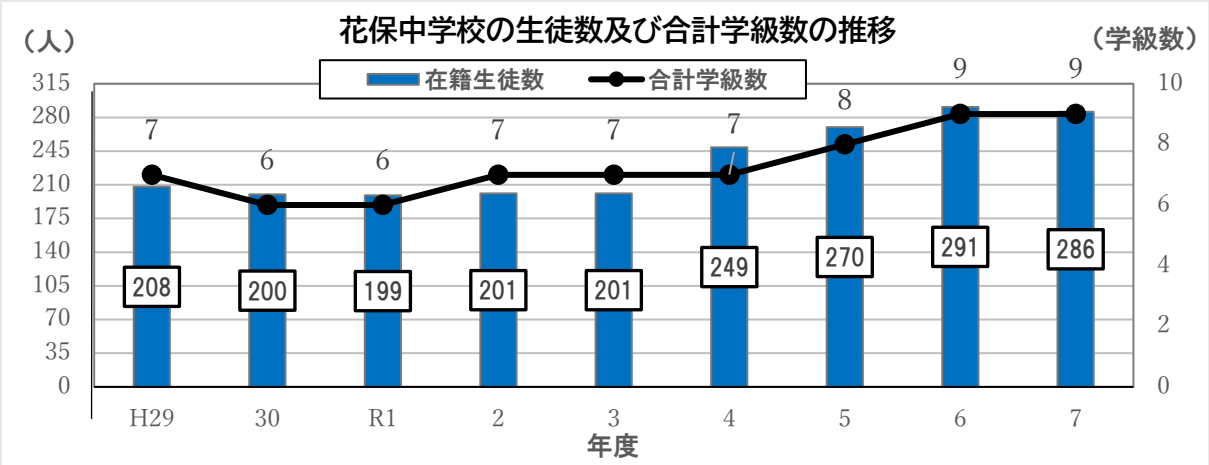


【参 考】

１　花保中学校の状況

（１）これまでの在籍生徒数の推移

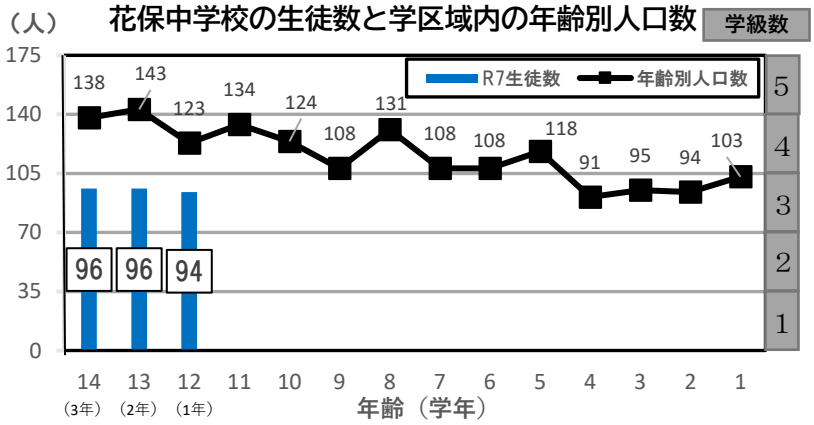
生徒数は、令和元年度の１９９人から増加し、令和６年度の２９１人をピークにその後は減少しています。また、合計学級数（年度ごとに１～３年生の学級数を合計した数）は９学級を超えず、小規模状態が続いています。

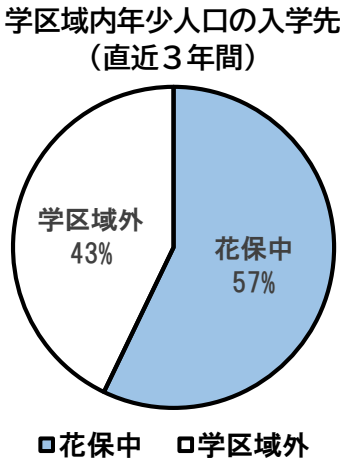


（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍生徒数は全学年で少なくなっています。また、花保中学校に通学している学区域内年少人口は、全体の５７％にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の１歳から１１歳までの年少人口の全員が仮に花保中学校に就学し、１学年３５人学級で算定した場合、当面は適正規模を維持すると見込んでいますが、４歳以下では１学年あたり３学級となる見込みで、将来的には小規模傾向になると予測しています。





※　令和７年５月時点の生徒数・居住人数をもとに算出（%は小数点第一位を四捨五入）。

（３）その他

ア　花畑北中学校・花畑中学校と比べて、築年数が浅い（昭和５４年築）

イ　花畑北中学校・花畑中学校と、町会・自治会や青少年対策地区委員会の区域が異なる

（２）統合後の学校の配置を検討します

ア　適正配置の視点

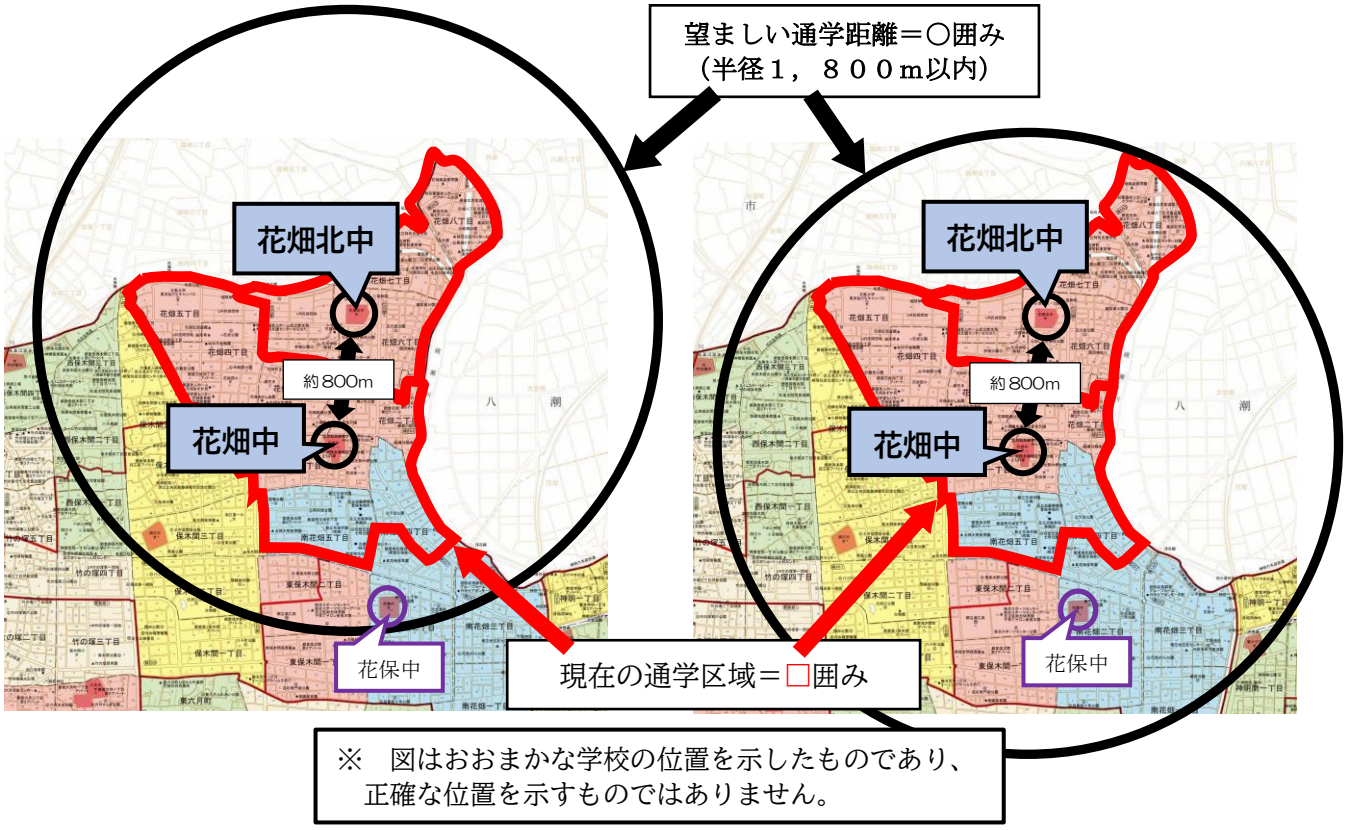
（ア）望ましい通学時間は、おおむね３０分以内

（イ）望ましい通学距離は、直線距離でおおむね１，８００ｍ以内

（ウ）歩行速度は分速６０ｍ

（エ）各校の敷地を活用する場合の通学距離の範囲は、下図のとおりです。
いずれの場合も望ましい通学距離の範囲内にとどまります。

①花畑北中学校の敷地を活用する場合　　**②花畑中学校の敷地を活用する場合**



イ　敷地面積の視点

（ア）花畑中学校は花畑北中学校と比べて、約９００㎡広い

※　約９００㎡は学校プール３個分（１個あたり約３００㎡）に相当する

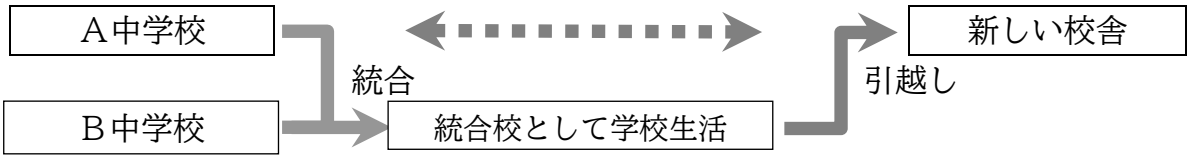
学校名	建築年	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
花畑北中学校	昭和５３年	１３，２２３	７，３８７
花畑中学校	昭和３８年	１４，１２２	６，７６９

ウ　施設更新の視点

（ア）花畑中学校は花畑北中学校よりも築年数が１５年古い

（３）改築期間中の仮校舎を検討します

◇統合のイメージ◇

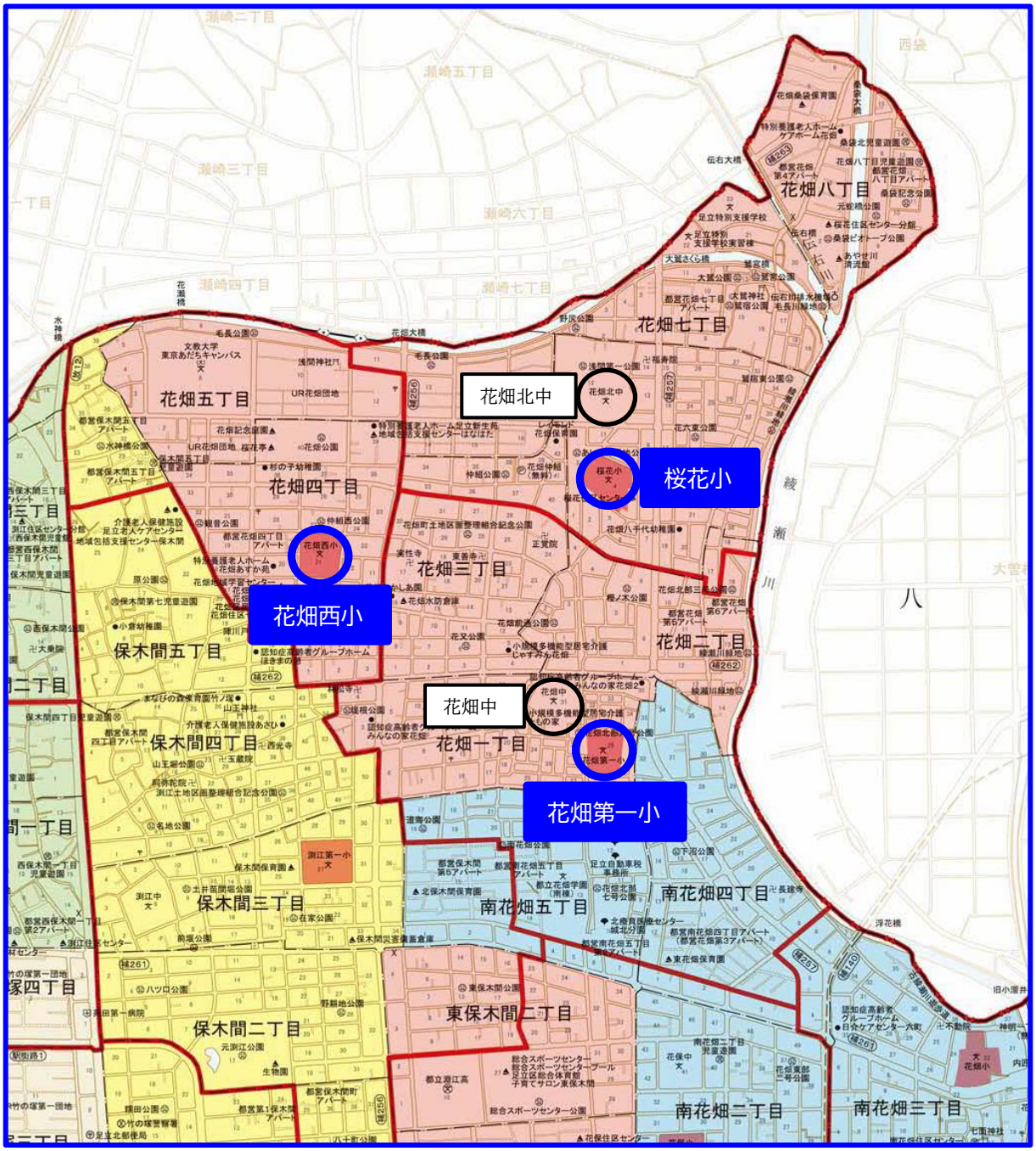


※　「新しい校舎」へ引越し後、Ｂ中学校の校舎や校庭、体育館等については、近隣の小・中学校改築時の仮校舎等として活用することを検討します。

校舎の解体・改築工事における生徒や教員等に対する安全性の確保や、騒音・振動による学校運営への影響を総合的に判断し、Ａ中学校の改築期間中は、Ｂ中学校を統合後の仮校舎として活用します。統合の際にＢ中学校の普通教室で不足が生じる場合は、必要に応じて教室の転用や増設などを行います。

第４章　花畑地区の小学校の現状と課題

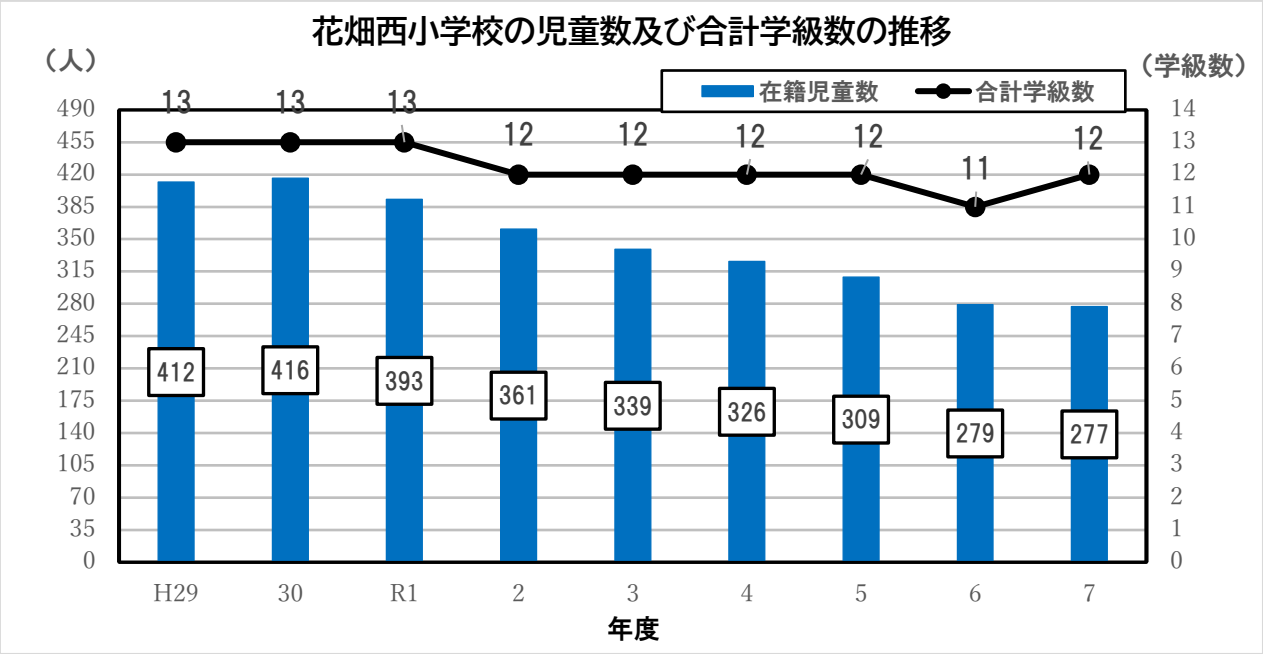
１　小学校の配置図（花畑地区）



２　花畑西小学校の状況

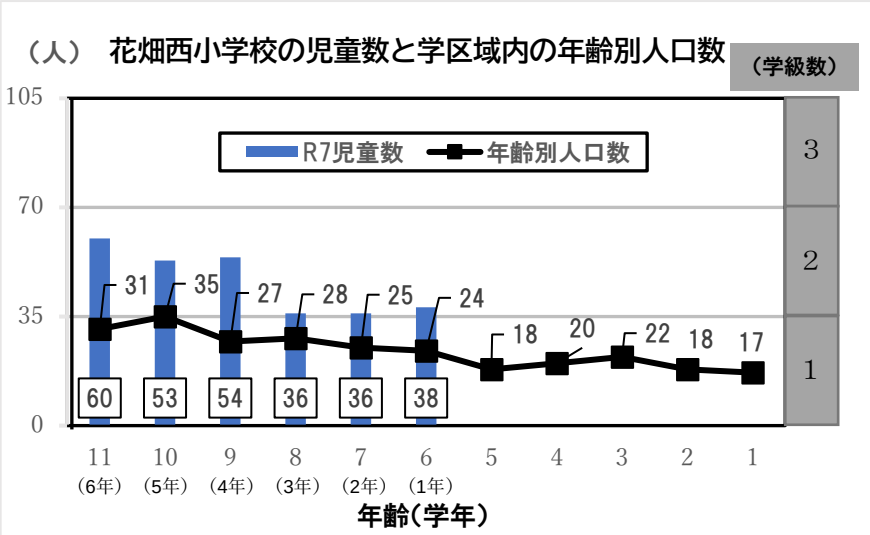
（１）これまでの在籍児童数の推移

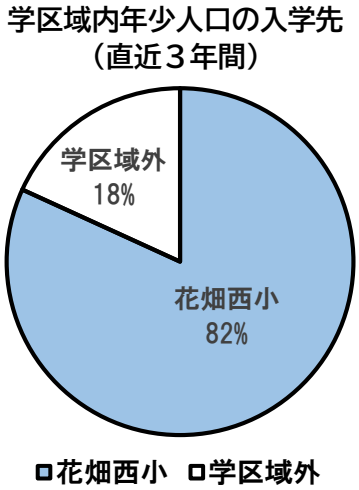
平成２９年度から令和７年度までの９年間で、児童数は４１２人から２７７人へ約３３％減少し、児童数の減少に伴い、合計学級数（年度ごとに１～６年生の学級数を合計した数）も令和６年度には小規模である１１学級になっています。



（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

在籍児童数は学区域内の年齢別人口数を上回っています。また、学区域内の１歳から５歳までの年少人口の全員が仮に花畑西小学校に就学し、１学年３５人学級と算定したとしても、各年齢で１学年あたり１学級が続く見込みで、今後さらに小規模化が進むと予測しています。



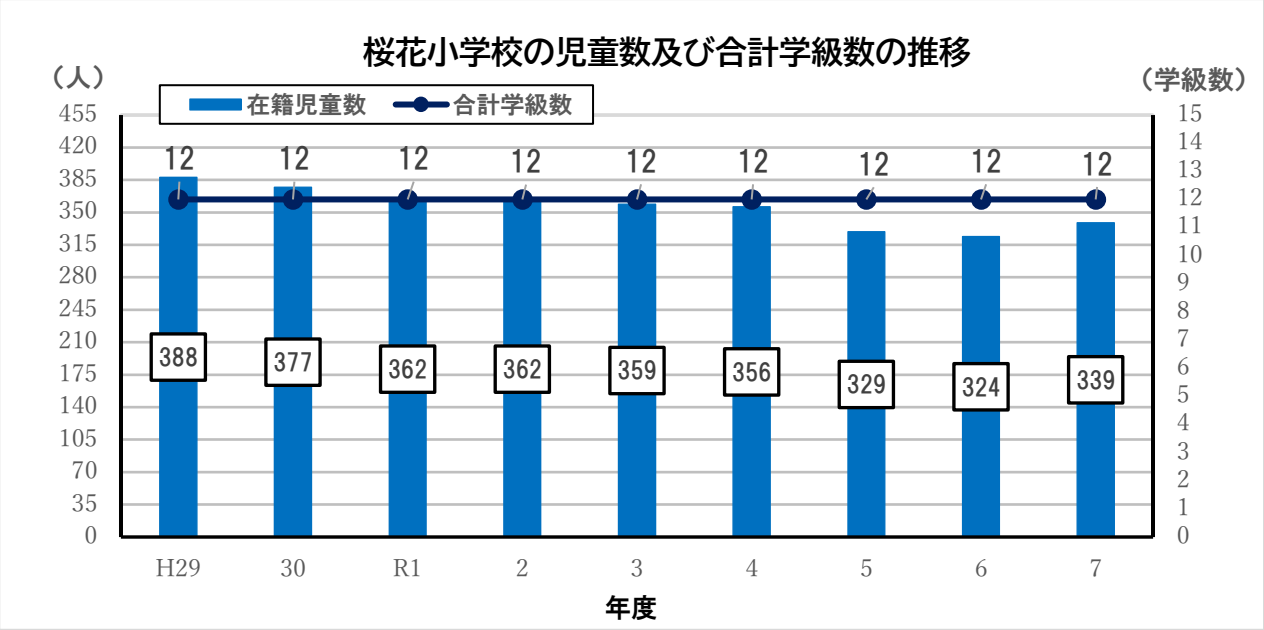


※　令和７年５月時点の児童数・居住人数をもとに算出（％は小数点第一位を四捨五入）。

３　桜花小学校の状況（平成９年４月、花畑東小学校と桑袋小学校の統合により開校）

（１）これまでの在籍児童数の推移

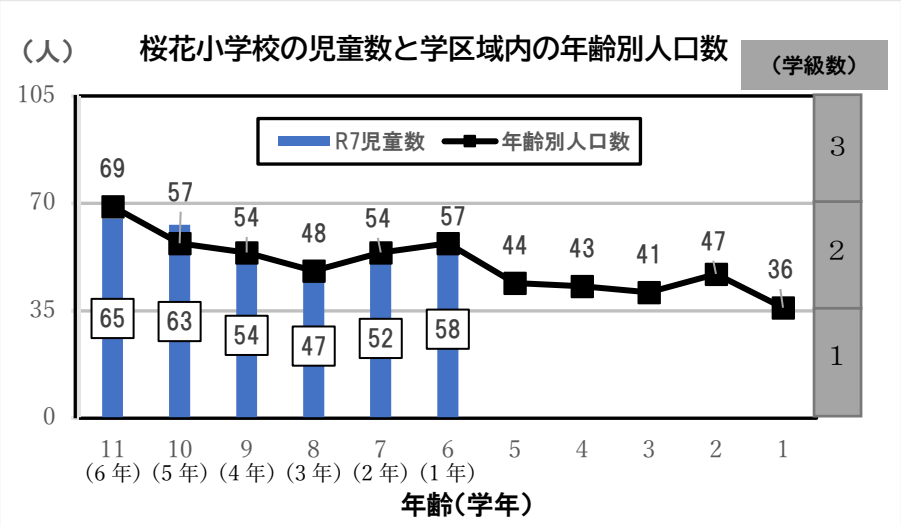
平成２９年度から令和７年度までの９年間で、児童数は３８８人から３３９人へ、約１３％減少しています。一方で、合計学級数（年度ごとに１～６年生の学級数を合計した数）は１２学級以上を維持しており、適正規模（１２～２４学級）の状況が続いています。

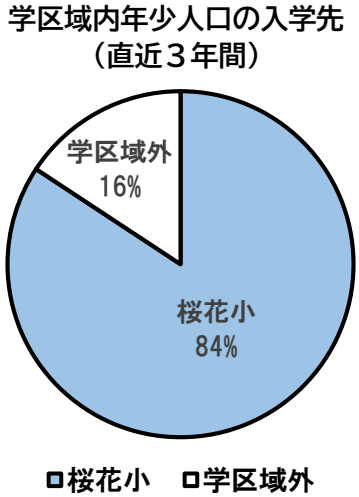


（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と在籍児童数はほぼ同数となっています。また、桜花小学校に通学している学区域内年少人口は、全体の８４％を占めています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の１歳から５歳までの年少人口の全員が仮に桜花小学校に就学し、１学年３５人学級と算定したとすると、各年齢で１学年あたり２学級となり、適正規模の下限を推移する見込みで、徐々に小規模傾向になると予測しています。



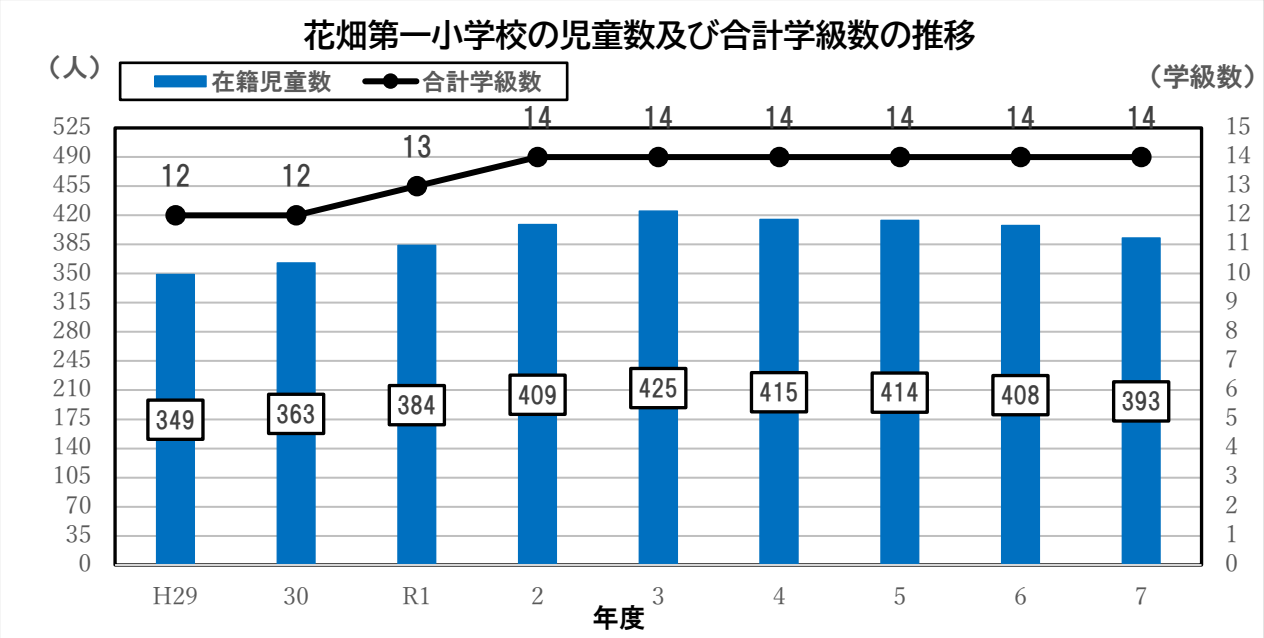


※　令和７年５月時点の児童数・居住人数をもとに算出（％は小数点第一位を四捨五入）。

４　花畑第一小学校の状況

（１）これまでの在籍児童数の推移

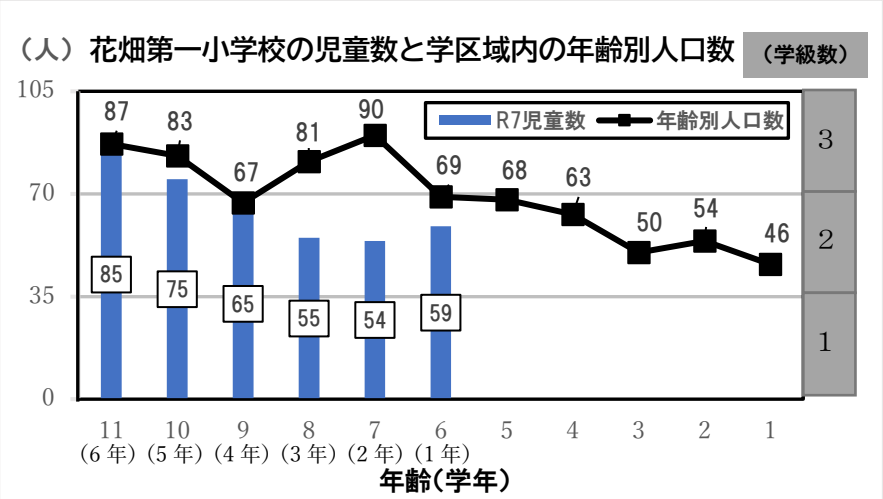
児童数は、平成２９年度の３４９人から増加し、令和３年度の４２５人をピークにその後は減少傾向となっています。一方で、合計学級数（年度ごとに１～６年生の学級数を合計した数）は１４学級を維持しており、適正規模（１２～２４学級）の状況が続いています。

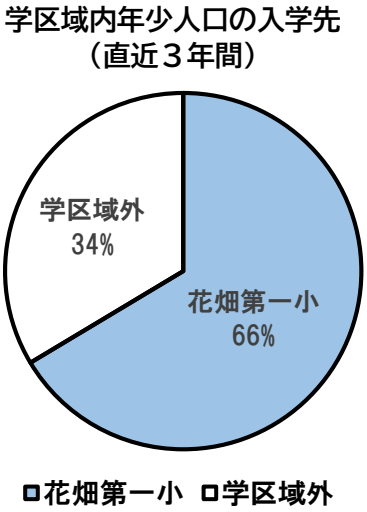


（２）学区域内の年少人口及び入学先傾向

学区域内の年齢別人口数と比べて、在籍児童数は全学年で少なくなっています。また、花畑第一小学校に通学している学区域内年少人口は、全体の６６％にとどまっています（円グラフ参照）。

さらに、学区域内の１歳から５歳までの年少人口の全員が仮に花畑第一小学校に就学し、１学年３５人学級と算定すると、各年齢で１学年あたり２学級が続く見込みで、引き続き適正規模を推移すると予測しています。





※　令和７年５月時点の児童数・居住人数をもとに算出（％は小数点第一位を四捨五入）。

ページ調整のため、

空白ページとする。

５　花畑西小学校の適正規模化に向けた検討

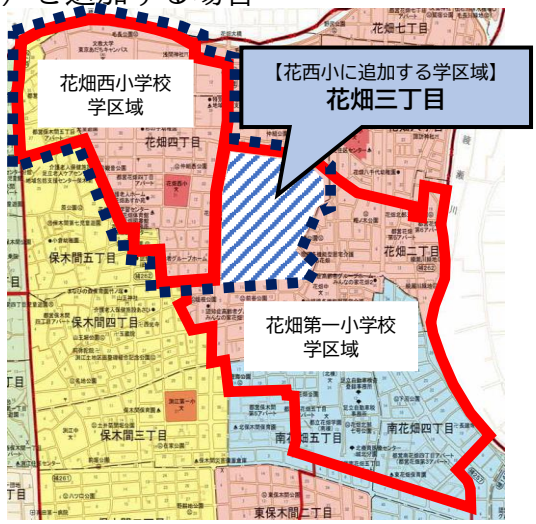
（１）学区域変更

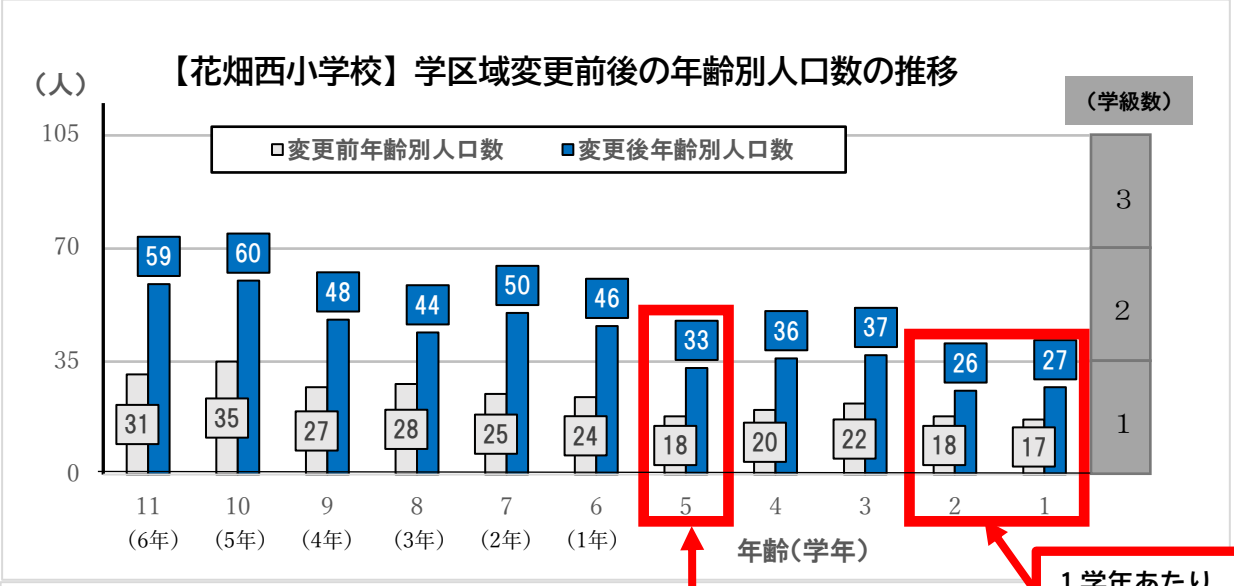
ア　花畑第一小学校の学区域の一部（花畑三丁目）を追加する場合

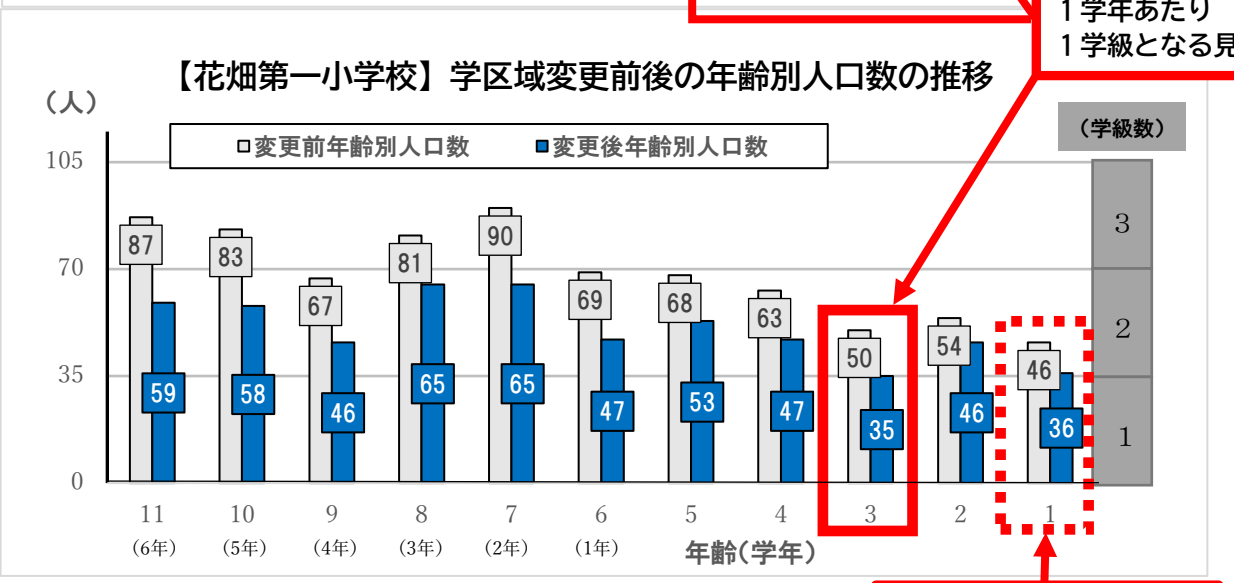
花畑西小学校では１学年あたり２学級の適正規模になる年齢もありますが、５歳と２歳以下では１学年あたり１学級となり、小規模化が進むと予測しています。

一方、学区域が狭まる花畑第一小学校でも、３歳で１学年あたり１学級となり、将来的には小規模傾向になると予測しています。

以上のことから、現時点では花畑西小学校及び周辺校の学区域変更は考えておりません。







１学年あたり
１学級となる見込み

将来的には１学年あたり
１学級に近くなる見込み

※　令和７年５月時点の学区域内居住人数を基に算出。

（２）学校統合

統合校組み合わせ別比較表

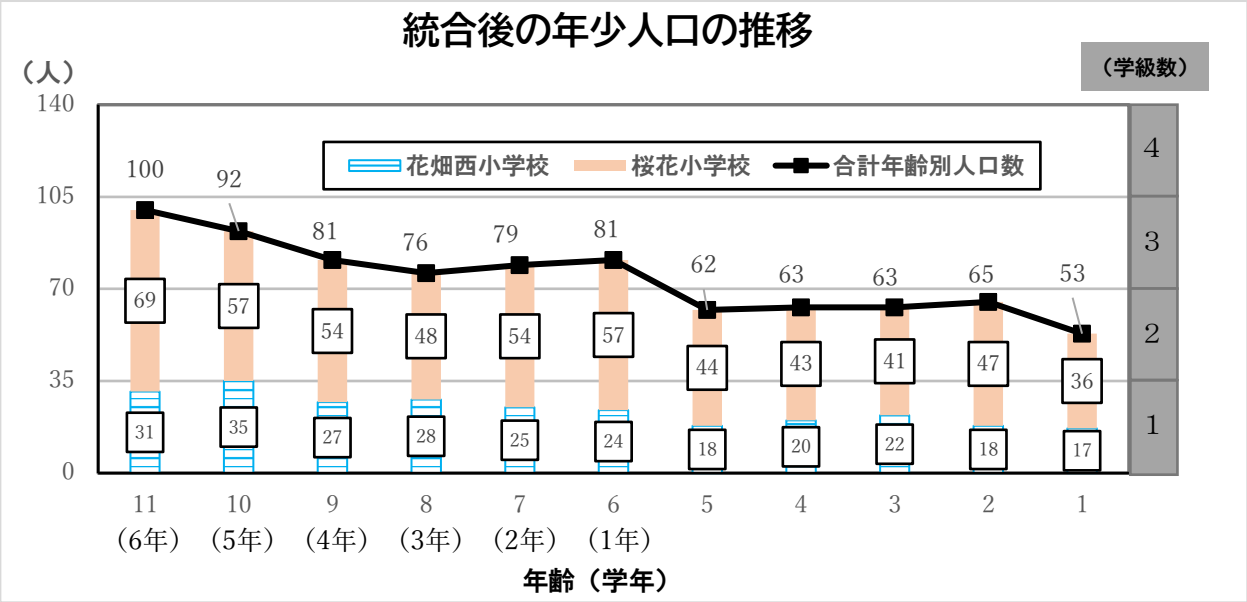
<table>
<tr><td>統合対象校
（敷地面積）</td><td colspan="4">花畑西小学校
（１０，５３７㎡）</td></tr>
<tr><td>説明ページ</td><td colspan="2">１７～１８ページ</td><td colspan="2">１９～２０ページ</td></tr>
<tr><td>統合相手校
（敷地面積）</td><td colspan="2">桜花小学校
（１１，８２６㎡）</td><td colspan="2">花畑第一小学校
（１０，４８０㎡）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">統合後の
合計学級数
（令和８～１２年度）</td><td colspan="2">１３～１７学級</td><td colspan="2">１７～２１学級</td></tr>
<tr><td colspan="4">適正規模の範囲：１２～２４学級</td></tr>
<tr><td>統合新校の
配置</td><td>桜花小学校</td><td>花畑西小学校</td><td>花畑第一小学校</td><td>花畑西小学校</td></tr>
<tr><td>最長通学距離
（直線距離）</td><td>約１，４５０ｍ</td><td>約１，８５０ｍ</td><td>約１，７５０ｍ</td><td>約１，８５０ｍ</td></tr>
<tr><td>望ましい通学
距離を超える
児童数
（令和１２年度）</td><td>１学年あたり
９人程度</td><td>１学年あたり
１１人程度</td><td>１学年あたり
１１人程度</td><td>１学年あたり
１０人程度</td></tr>
</table>

ア　花畑西小学校と桜花小学校を統合する場合

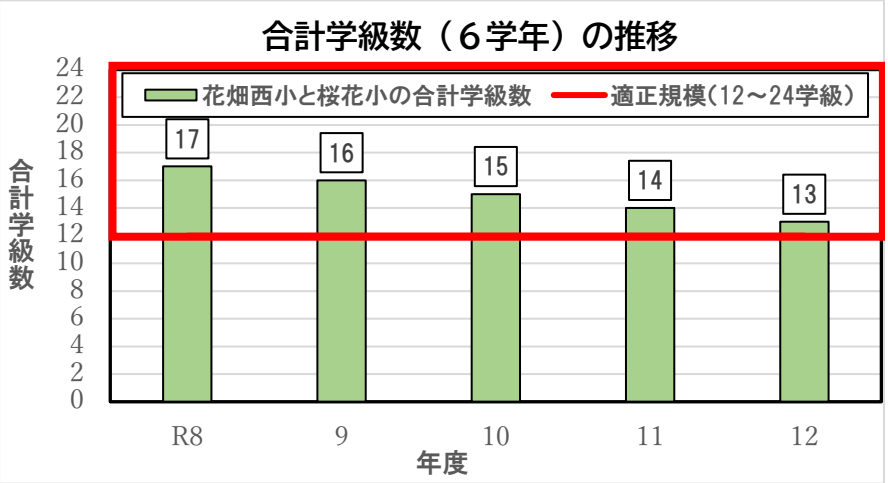
（ア）適正規模の視点

花畑西小学校と桜花小学校の学区域内の１歳から５歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、１学年３５人学級で算定した場合、統合後の合計学級数は、１３～１７学級程度の適正規模で推移すると予測しています。

【花畑西小学校＋桜花小学校】統合後の年少人口と合計学級数の推移



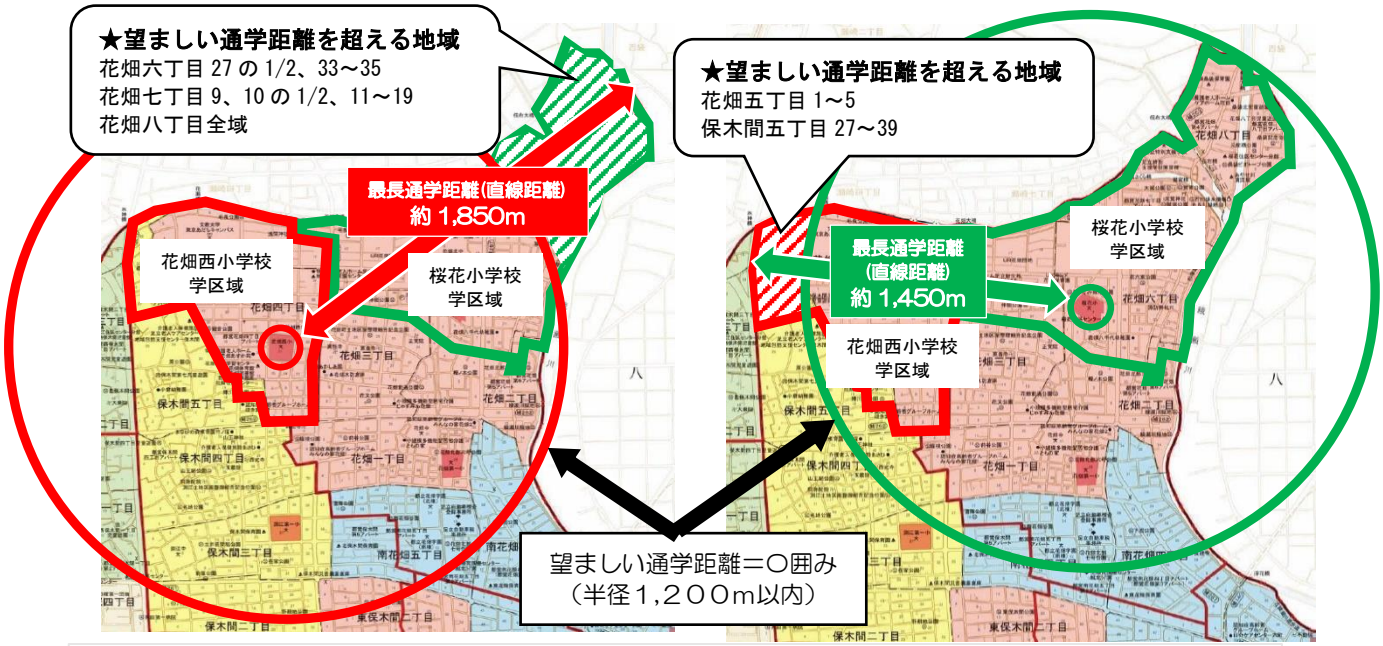
※　令和７年５月時点の学区域内居住人数を基に算出。

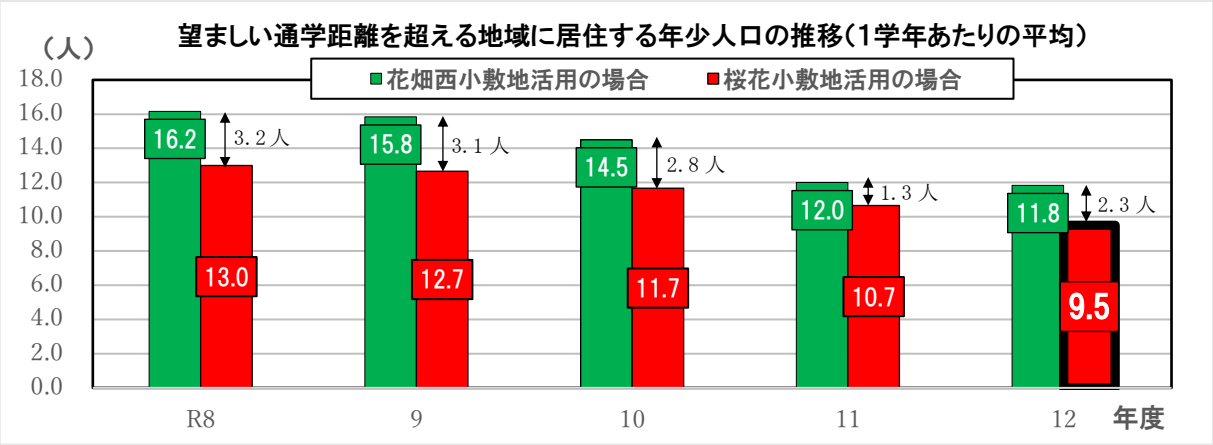


（イ）適正配置の視点

桜花小学校の敷地を活用するほうが、最長通学距離（直線距離）は４００ｍ短い約１，４５０ｍになります。また、望ましい通学距離を超える地域に居住する年少人口（１１歳以下）は、１学年あたり約２人少ない９人程度（令和１２年度）となります。

①花畑西小学校の敷地を活用する場合　　**②桜花小学校の敷地を活用する場合**





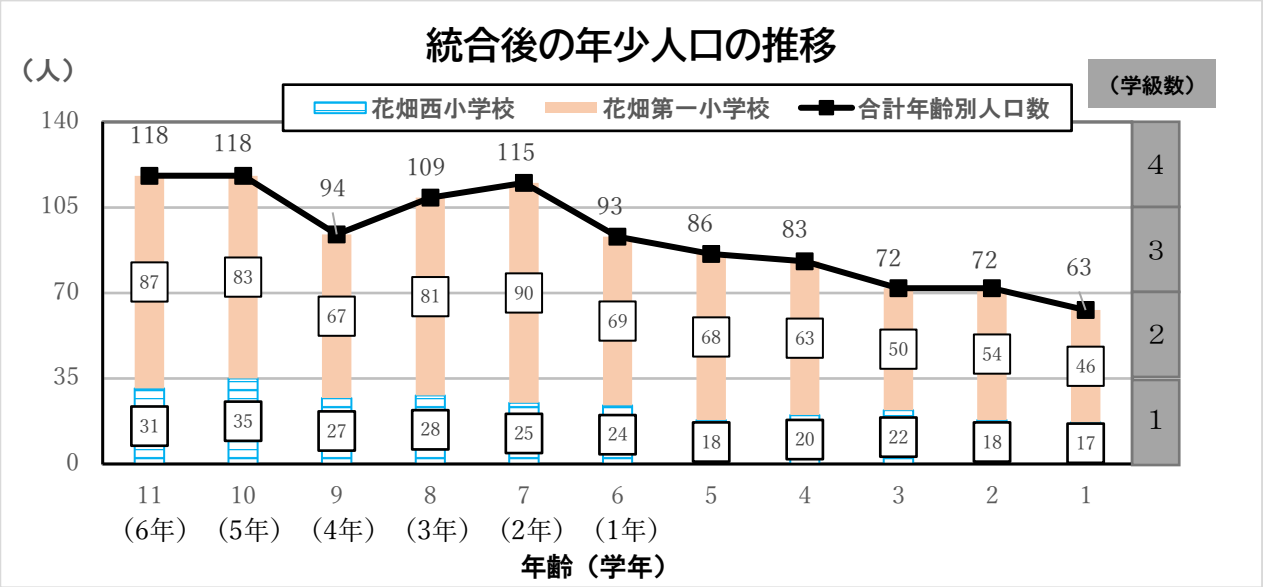
	花畑西小学校の敷地を活用する場合	桜花小学校の敷地を活用する場合
望ましい通学距離を超える地域	・花畑六丁目 27 の 1/2、33～35 ・花畑七丁目 9，10 の 1/2、11～19 ・花畑八丁目全域	・花畑五丁目 1～5 ・保木間五丁目 27～39
最長通学距離（直線距離）	約１，８５０ｍ	約１，４５０ｍ
望ましい通学距離を超える児童数（令和１２年度）	１学年あたり１１人程度	１学年あたり９人程度

イ　花畑西小学校と花畑第一小学校を統合する場合

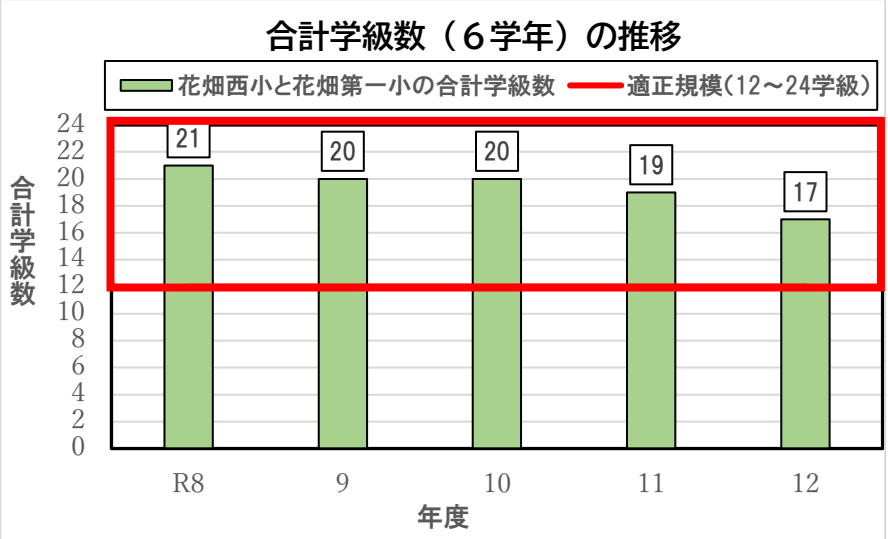
（ア）適正規模の視点

花畑西小学校と花畑第一小学校の学区域内の１歳から５歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、１学年３５人学級で算定した場合、統合後の合計学級数は、１７～２１学級程度の適正規模で推移すると予測しています。

【花畑西小学校＋花畑第一小学校】統合後の年少人口と合計学級数の推移



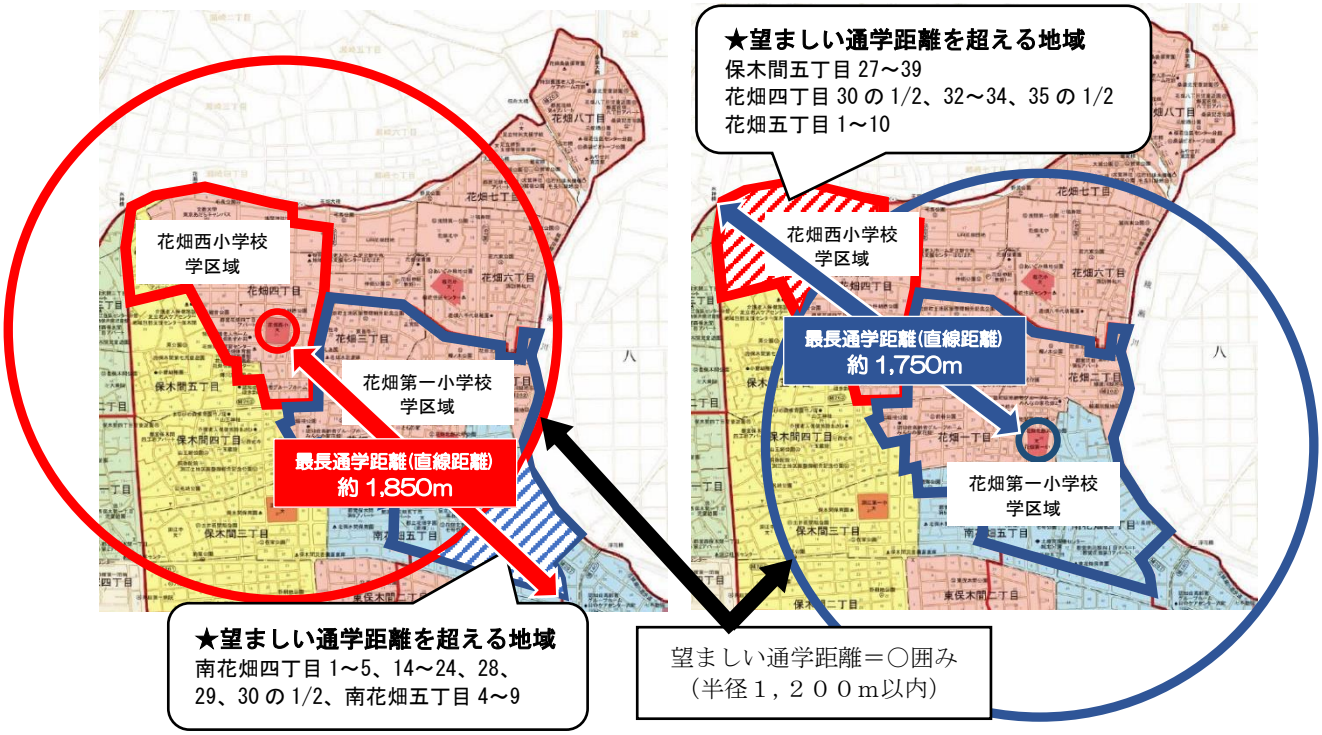
※　令和７年５月時点の学区域内居住人数を基に算出。

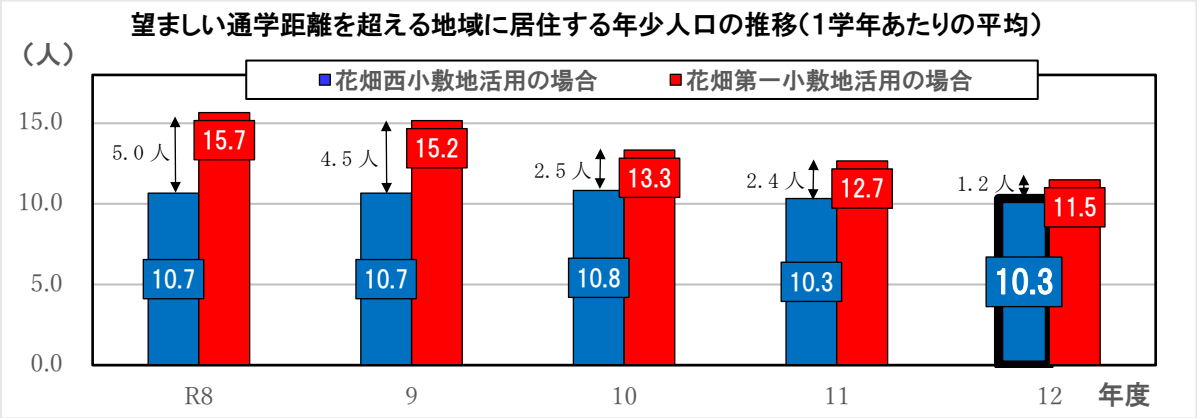


（イ）適正配置の視点

花畑第一小学校の敷地を活用するほうが、最長通学距離（直線距離）は１００ｍ短い約１，７５０ｍになります。一方で、望ましい通学距離を超える地域に居住する年少人口（１１歳以下）は、花畑西小学校の敷地を活用するほうが１学年あたり約１人少ない１０人程度（令和１２年度）となります。

①花畑西小学校の敷地を活用する場合　　**②花畑第一小学校の敷地を活用する場合**





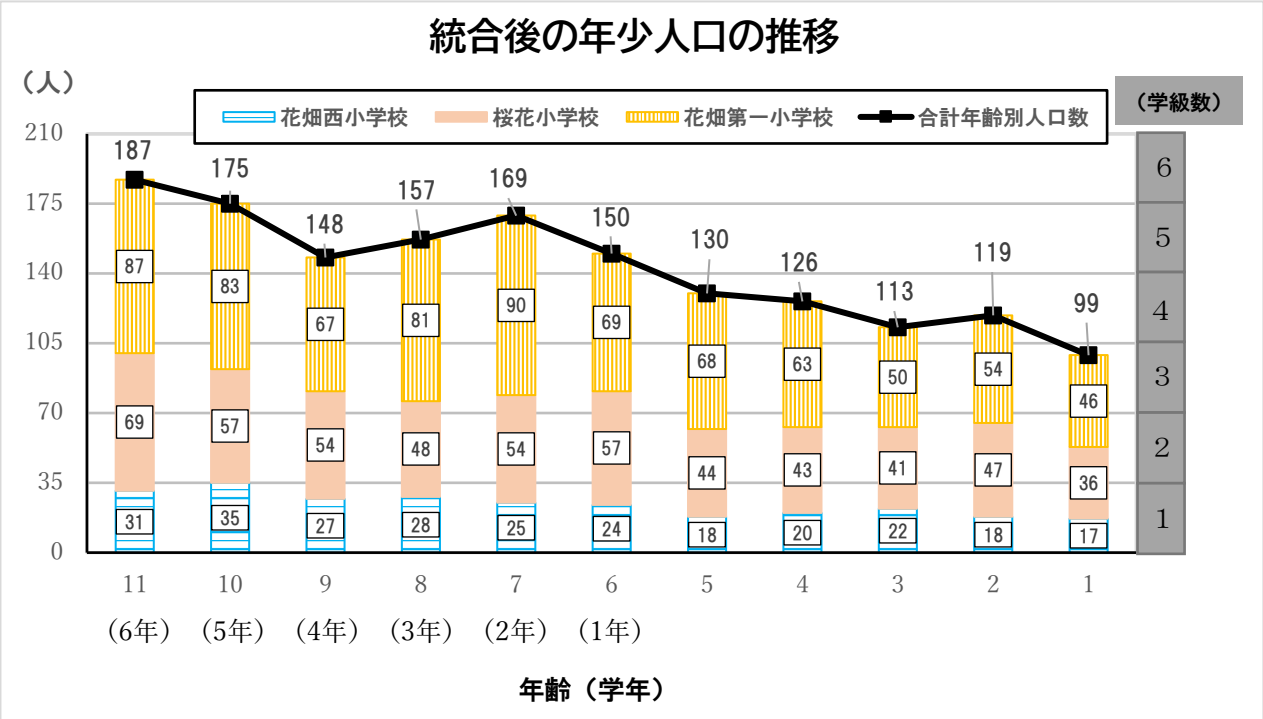
	花畑西小学校の敷地を活用する場合	花畑第一小学校の敷地を活用する場合
望ましい通学距離を超える地域	・南花畑四丁目 1～5、14～24、28、29、30 の 1/2 ・南花畑五丁目 4～9	・保木間五丁目 27～39 ・花畑四丁目 30 の 1/2、32～34、35 の 1/2 ・花畑五丁目 1～10
最長通学距離（直線距離）	約１，８５０ｍ	約１，７５０ｍ
望ましい通学距離を超える児童数（令和１２年度）	１学年あたり１０人程度	１学年あたり１１人程度

ウ　全３校を統合する場合（花畑西小学校・桜花小学校・花畑第一小学校）

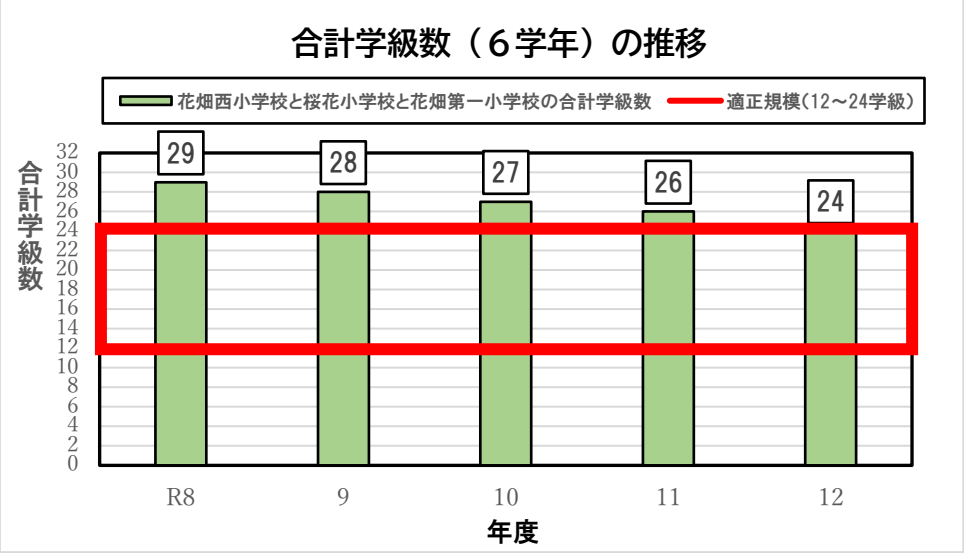
（ア）適正規模の視点

花畑西小学校と桜花小学校と花畑第一小学校の学区域内の１歳から５歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、１学年３５人学級で算定した場合、統合後の合計学級数は２４～２９学級程度となり、適正規模を超える、または上限に近い規模で推移すると予測しています。

【花畑西小学校＋桜花小学校＋花畑第一小学校】統合後の年少人口の推移



※　令和７年５月時点の学区域内居住人数を基に算出。



６　学校施設の更新

花畑第一小学校の校舎は昭和３８年建設で、築後６０年を経過しています。

大規模改修済み及び改築予定の学校を除くと、区内小学校では花畑小学校と同様に古い校舎となるため、すみやかに施設更新を進める必要があります。

◆昭和３０年代に建築された小学校◆

番号	学校名	建築年	大規模改修等の実施状況
1	興本小学校	昭和３７年	令和８～１０年度　新校舎設計（予定）
2	中川小学校	昭和３７年	平成２２年度　大規模改修済み
3	千寿常東小学校	昭和３８年	令和７年度　施設更新に伴う設計等事業者選定済み
4	花畑小学校	昭和３８年	
5	花畑第一小学校	昭和３８年	
6	西新井第二小学校	昭和３９年	
7	宮城小学校	昭和３９年	令和７年度　施設更新に伴う設計等事業者選定済み

◇大規模改修とは◇

壁、床、天井を入れ替え、エレベーターを設置した改修。

第５章　花畑地区の適正規模・適正配置実施計画（小学校）

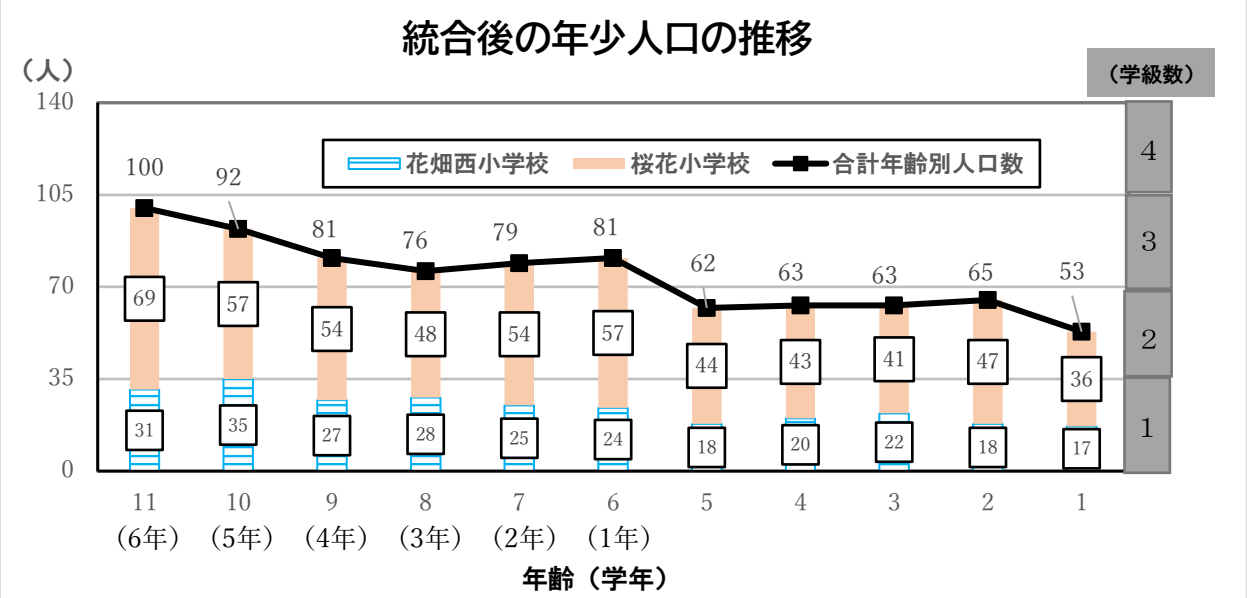
１　適正規模・適正配置の具体的な方法

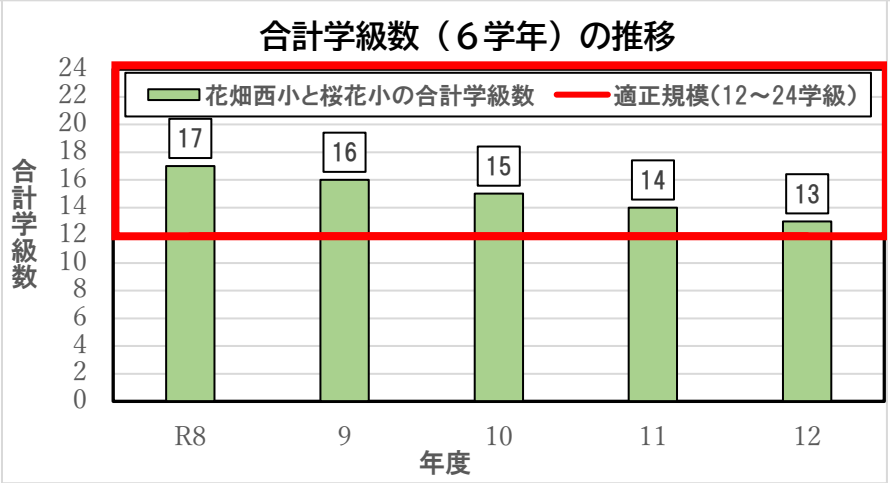
（１）「花畑西小学校」と「桜花小学校」を統合します

花畑西小学校と桜花小学校の学区域内の１歳から５歳までの年少人口全員が学区域内の小学校に就学したと仮定し、１学年３５人学級で算定した場合、統合後の６学年の合計学級数は１３～１７学級程度の適正規模で推移することが予測されます。（花畑第一小学校は単独で１２～１６学級程度の適正規模で推移する見込み）

花畑西小学校と桜花小学校を統合することにより、安定した学校規模を維持するとともに、学校生活をより充実させ、教育環境のさらなる向上を目指します。

◇統合後の年少人口の推移◇　　※　令和７年５月時点の学区域内居住人数をもとに算出





（２）統合後の学校の配置を検討します

ア　適正配置の視点

（ア）望ましい通学時間は、おおむね３０分以内

（イ）望ましい通学距離は、直線距離でおおむね１，２００ｍ以内

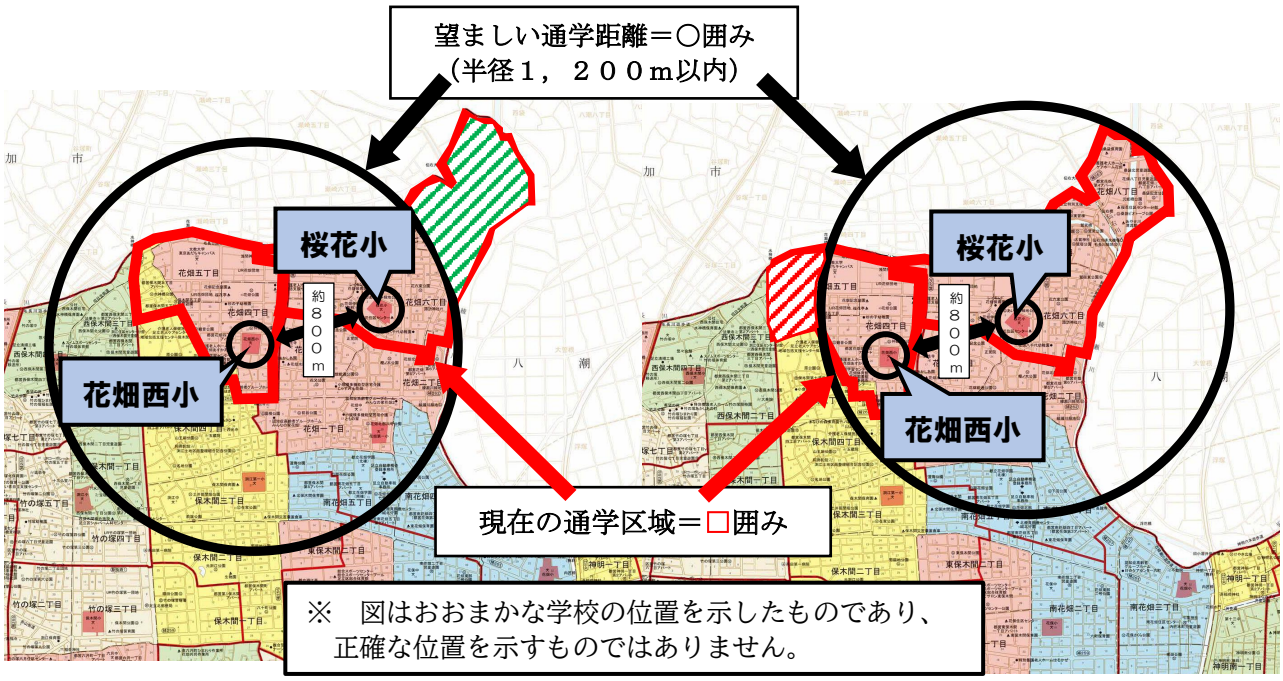
（ウ）歩行速度は分速４０ｍ

（エ）各校の敷地を活用した場合の通学距離の範囲は、下図のとおりです。

①　花畑西小学校の敷地を活用する場合の通学距離の範囲は、桜花小学校の通学区域を越える地域が生じます。

②　桜花小学校の敷地を活用する場合の通学距離の範囲は、花畑西小学校の通学区域を超える地域が生じます。

①花畑西小学校の敷地を活用する場合　　**②桜花小学校の敷地を活用する場合**



（オ）桜花小学校の敷地のほうが、望ましい通学距離を超える児童が少なく、最長通学距離（直線距離）も短い

	花畑西小学校の敷地を活用する場合	桜花小学校の敷地を活用する場合
望ましい通学距離を超える地域	・花畑六丁目 27 の 1/2、33～35 ・花畑七丁目 9，10 の 1/2、11～19 ・花畑八丁目全域	・花畑五丁目 1～5 ・保木間五丁目 27～39
望ましい通学距離を超える児童数（令和１２年度）	１学年あたり１１人程度	１学年あたり９人程度
最長通学距離（直線距離）	約１，８５０ｍ	約１，４５０ｍ

イ　敷地面積の視点

（ア）桜花小学校のほうが、花畑西小学校より約１，２００㎡広い

※　約１，２００㎡は、学校プール４個分（１個あたり約３００㎡）に相当する

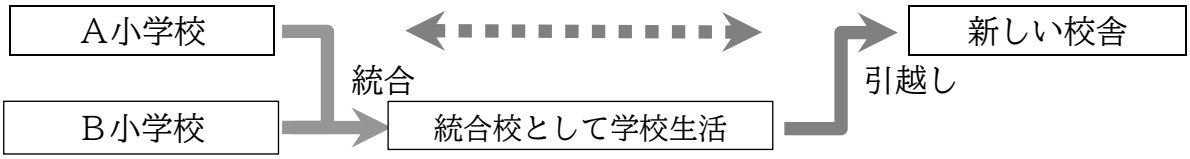
学校名	建築年	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
花畑西小学校	昭和４５年	１０，５３７	６，４１２
桜花小学校	昭和４７年	１１，８２６	５，９３６

ウ　施設更新の視点

（ア）花畑西小学校と桜花小学校はどちらも築５０年以上経過している

（３）改築期間中の仮校舎を検討します

◇統合のイメージ◇



※　「新しい校舎」へ引越し後、Ｂ小学校の校舎や校庭、体育館等については、近隣の小・中学校改築時の仮校舎等として活用することを検討します。

校舎の解体・改築工事における児童や教員等に対する安全性の確保や、騒音・振動による学校運営への影響を総合的に判断し、Ａ小学校の改築期間中は、Ｂ小学校を統合後の仮校舎として活用します。統合の際にＢ小学校の普通教室で不足が生じる場合は、必要に応じて教室の転用や増設などを行います。

■「花畑西小学校」の統合相手校に「花畑第一小学校」を選定しなかった理由

①「花畑第一小学校」を統合相手校とする場合、最長通学距離（直線距離）が長くなり、望ましい通学距離を越える児童数も多くなる（１８、２０ページ参照）

統合相手校	花畑第一小学校		桜花小学校	
統合新校の配置	花畑第一小学校	花畑西小学校	桜花小学校	花畑西小学校
最長通学距離（直線距離）	約１，７５０ｍ	約１，８５０ｍ	約１，４５０ｍ	約１，８５０ｍ
望ましい通学距離を超える児童数（令和１２年度）	１学年あたり１１人程度	１学年あたり１０人程度	１学年あたり９人程度	１学年あたり１１人程度

②「桜花小学校」単独では、学区域内の年少人口で１２学級程度（２６８～３３９人）の適正規模の下限を推移し、徐々に小規模傾向に向かう見込みのため、適正規模の維持に向けた取組みが必要になる（１２ページ参照）

※　「花畑第一小学校」は単独で１２－１６学級程度（３５０～４７７人）の適正規模で推移する見込み

第６章　学校統合に向けた今後の進め方

１　統合地域協議会の設置

統合について統合対象校の開かれた学校づくり協議会においてご理解をいただいた後、「統合地域協議会」を設置して統合実現に向けた準備を進めていきます。

（１）委員構成

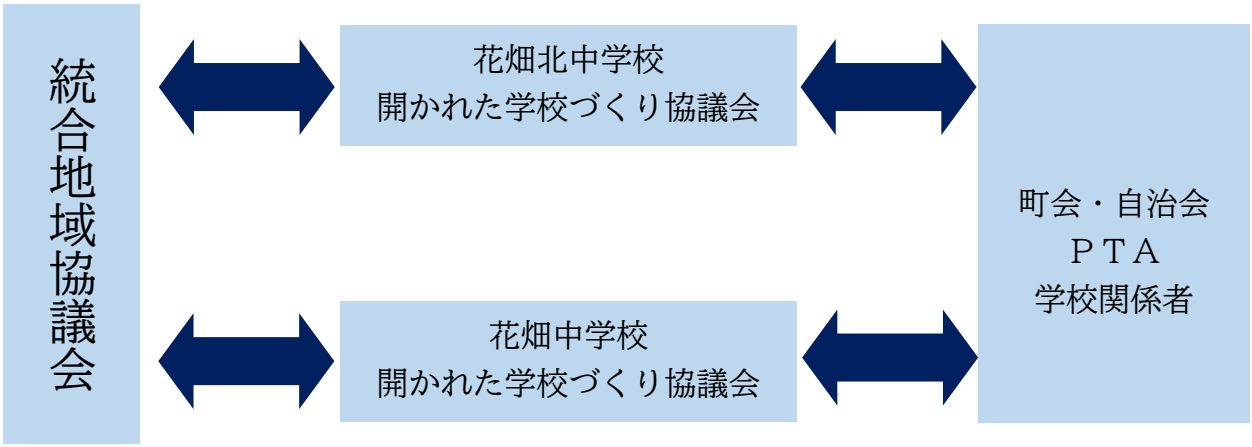
ア　各校の「開かれた学校づくり協議会」の委員中心（各校の状況により、地域関係者や保護者も可）
イ　委員総数は２０名程度（各校から１０名程度）

（２）主な議題

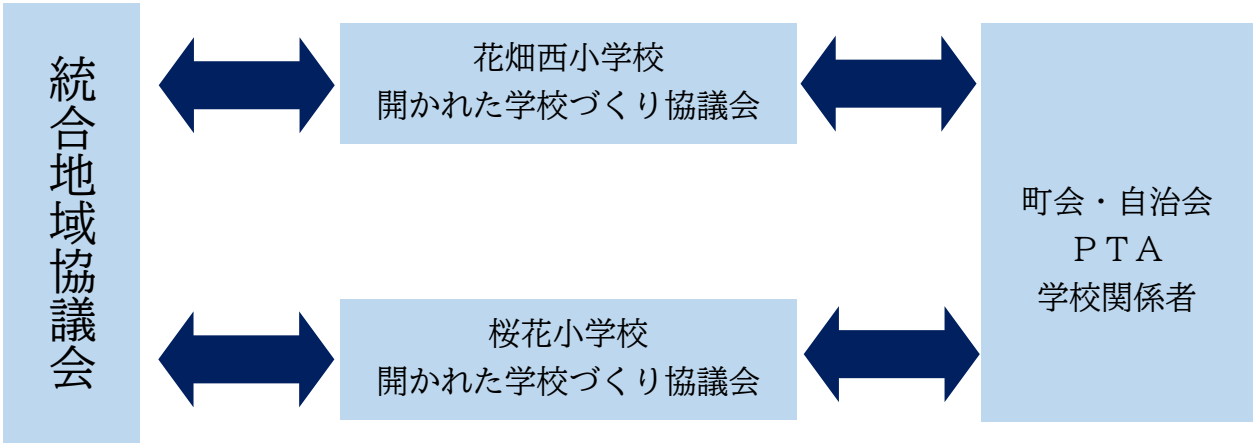
ア　統合地域協議会活動の目的
イ　統合地域協議会活動のスケジュール
ウ　統合校の校名や新しい校章・新しい校歌
エ　各校の歴史や文化の継承
オ　統合に向けた子どもたちの交流事業の検討など

（３）統合地域協議会の構成イメージ

ア　中学校



イ　小学校



２　統合及び校舎建設等のスケジュール（予定）

（１）中学校

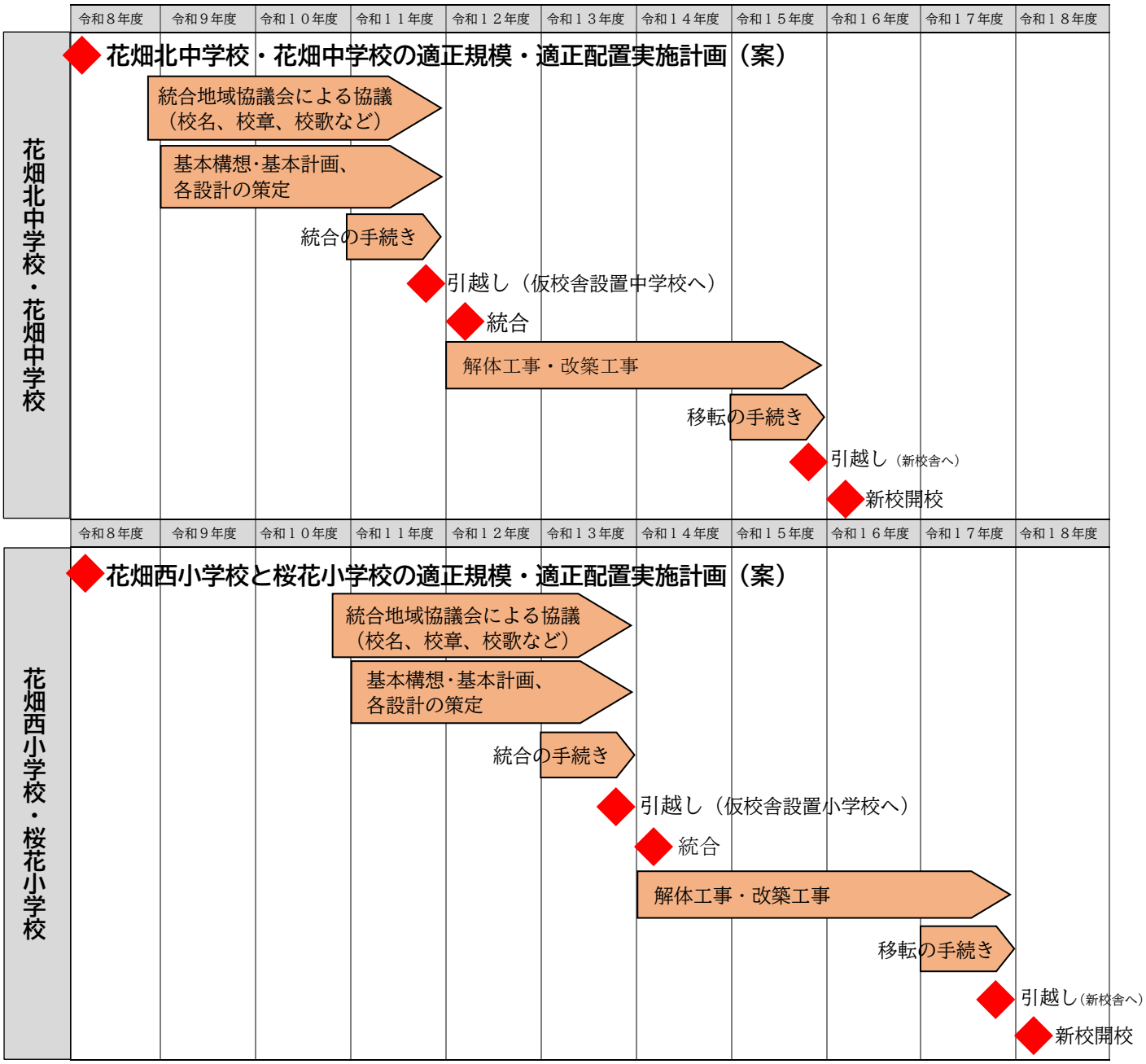
令和１２年４月に統合し、令和１６年４月に新校舎での学校生活の開始を目指します。

（２）小学校

令和１４年４月に統合し、令和１８年４月に新校舎での学校生活の開始を目指します。

なお、学校施設の機能などについては、学校関係者や地域の皆様から丁寧にご意見を伺いながら、解体工事や新校建設などに伴う様々な課題を着実に解決していきます。

◇今後の主なスケジュール（予定）◇



３　請願を踏まえた検討

平成２９年６月に区議会で採択された「花畑地区学校統合に伴い、魅力ある公教育、教育環境を実現し文教地区・花畑を目指すことを求める請願」を踏まえ、これまで区では、当該地区の年少人口の推移を注視しながら、他自治体の取り組み等も調査・研究してきました。

今後は、これまでの検討内容を踏まえ、地域や学校関係者のご意見も伺いながら、請願の願意を満たす取り組みの実現を目指していきます。

（１）請願の要旨

花畑地区の学校統合と施設更新に伴い、義務教育学校、官民一体型学校等により小・中一貫を含めて魅力ある公教育、充実した教育環境を整備して欲しい。併せて文教大学学園との連携による魅力ある学校づくりにより、花畑地区を文教地区として発展させることを求める。

（２）小中一貫教育の方向性（平成２９年６月の請願説明資料より抜粋）

ア　義務教育学校への移行は、国や都による正規教員の加配等のメリットが未だ見えていない現段階で結論を出すのは時期尚早である

イ　小中一貫校の設置については、取り組みの効果が高い「施設一体型」校舎が望ましく、現時点では、「施設分離型」の設置を選択すべきではない

ウ　新たな「施設一体型」小中一貫校の設置は、施設を一体化できることや校舎が施設更新の時期であること等を前提に、小中連携や興本扇学園・新田学園の成果の比較検証等を勘案して総合的に判断していく必要がある

（３）「施設一体型」小中一貫校以外の事例（同一敷地内で小中併設）

自治体名	北　区	世田谷区
学校名	王子小学校・王子桜中学校	芦花（ろか）小学校・芦花（ろか）中学校（保育園併設）
開　設	平成２１年	平成２４年
教育目標及びカリキュラム	小・中それぞれで設定	小・中それぞれで設定
学校規模（令和７年５月時点）	小学校８８２人（２８学級） 中学校４３９人（１３学級）	小学校１，００６人（３１学級） 中学校　　３２７人（　９学級）
学校施設	体育館２箇所 プール１箇所（小・中共用） 給食調理室１箇所（小・中共用）	体育館２箇所 プール２箇所 給食室１箇所（小・中共用）
校地面積	小学校　11,367.65 ㎡ 中学校　11,142.55 ㎡	29,239 ㎡（全体面積）